G7ユースサミット報告書

J.Y.P.S.
Japan Youth Platform for Sustainability

目次

1.　G7ユースサミット
1）　まとめ
2）　導入
3）　開催情報
4）　G7ネットワーク運営委員会
5）　ユースサミットプログラム

2.　ユースサミットプログラム
1）　開会式
2）　分科会
3）　パフォーマンス
4）　閉会式

3.　ユースサミット宣言文

4.　市民サミット

5.　International Media Center

6.　参考資料

G7ユースサミット

まとめ（Executive Summary）

Japan youth Platform for Sustainability (JYPS)は、5月22日～27日にG7ユースサミットの主催、市民サミットの後援、三重大学、じばさん三重、国際メディアセンター (IMC)での記者会見を行いました。JYPSはユースサミット主催、分科会の開催、記者会見において、若者の意見を適切に集約し、国内外における若者の意見の場を提供するべく活動しています。今回のG7ユースサミット、分科会、記者会見の開催に際して、参加した140名以上の若者、NPO、 NGO、企業、マスメディアとのパートナーシップを促進しながらユースサミット宣言文の作成をしました。

導入

G7首脳会合およびG7市民サミットに先立って行われる「G7ユースサミット（G7YS）」は、5月22日（日）に開催される、ユースによるユースサミットです。
ユースサミットの目的は、

1. G7サミットにおける若者にとって大事なこととそのプライオリティを明確にする
2. 若者が国際問題に対し政策形成、実施、監視、フォローアップに取り組める力を示す
3. 若者のアドボカシーにむけてのキャパシティービルディングを通じて、日本の若者の政策提言能力を一般的に高める
4. 若者が集い、様々な面で活躍するNGOや団体と繋がることを通して、若者と他の団体とのパートナーシップを促進する。

G7サミットは、国際政治・経済をはじめ、途上国の開発や環境、地球規模の課題に向けた国際的な取り組みに大きな影響を与えてきています。そのため、世界の市民社会、NGO・NPOはサミットに注目し、様々な働きかけを行ってきました。G7伊勢志摩サミットも例外ではありません。2016年は「持続可能な開発目標」や気候変動に関する「パリ協定」が採択されてからの初のサミットであり、国内外の市民社会からの大きな注目を浴びています。

Japan Youth Platform for Sustainabiliy (JYPS) はG7ユースサミットを実施し、様々な背景や経験を持つ若者と共同しながら、持続可能な開発を目指す若者が声を上げるスペースを作り上げます。彼らの現場での経験、知識、そしてネットワークを最大限に生かし、G7を超えて、若者が協働できるようにします。

開催情報

1. 日時: 2016年5月22日 (日) 9:00 ~ 18:00
2. 場所: 三重大学　生物資源学部棟
3. 参加者数: 143名
4. 招待講演者
    a. 稲場 雅紀 / 動く→動かす
    b. 町田 ゆうこ / 毎日新聞
    c. 中村 智彦/ 三重大学環境 ISO
5. 主催側一覧

・主催：Japan Youth Platform for Sustainability
・後援：動く→動かす/生物資源研究科国際交流委員会 / 2016年G7市民社会プラットフォーム Japan Civil Society Platform

6. プログラム（こちら）

G7ユースネットワーク運営委員

2008年G8洞爺湖サミット以来8年ぶりのG7サミットが2016年5月に三重県志摩市で開催されました。2016年のG7伊勢志摩サミットは、世界GDPの半分を占め、政府開発援助(ODA)額の上位5ヶ国を含む7ヶ国の首脳が集まる機会であり、経済、政治、開発の問題を議論する機会です。2015年は3月の『仙台防災枠組み 2015-2030』、9月の『我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ』、そして12月の『気候変動枠組み条約締結国会課21回会合（COP21）』など国際的なダイナミズムがある中で、2016年の伊勢志摩サミットは、防災、開発・持続可能な社会、環境などの議題を扱う初めてのサミットとして位置づけらました。

またこのように大規模で、かつ15年後を見据えた長期の枠組みの実施にあたり、ユースの参画が非常に重要になりました。持続可能な社会を実現するためには、将来世代のニーズもきちんと配慮されなければなりませんし、そのための世代間公平感の達成は急務です。

G7 Youth Networkは上記のような国際的目標、また国内での問題解決をG7サミット諸国から示されることを求めています。また開催国である日本が今地球規模の課題に対する責任と行動を示すことを求めています。上記の活動を行うにあたりG7 Youth Network運営委員会は、G7ユースサミット開催（2016年5月22日）とそれに向けた活動における幅広い若者主導のパートナーシップをコーディネートするために設立されました。活動期間は暫定的にG7首脳会合（2016年5月27日）までを予定しています。

G7YSの応募フォームはこちらから。またチーム希望届はこちらから。

名前	所属	役職
福原蛍	名古屋大学	ポリシー
上原沙くら	ナゴ校 CandleNightNagoya	アクション
佐藤媛香	信州大学環境ISO学生委員会/ClimateYouthJapan	アクション
銘苅有紗	AIESEC名古屋大学委員会	ポリシー
澤井美奈江	(名古屋NGOセンター)Nたま13期生	アクション
安藤咲	愛知県立大学	キャンペーン
不破 花奈実	岐阜大学	アウトリーチ
中西彩花	国際基督教大学（ICU）	アウトリーチ
春山 椋	名古屋大学	アウトリーチ
竹内拓海	法政大学	アンバサダー
永井一輝	NPO法人manavee	アウトリーチ
秤谷 隼世	inochi Gakusei Project/福澤諭吉記念文明塾CP11期	アウトリーチ
下村直之	Japan Youth Platfrom for Sustaianbility	アウトリーチ統括

久保田彩乃	Japan Youth Platfrom for Sustaianbility	キャンペーン統括
外池英彬	Japan Youth Platfrom for Sustaianbility	政策統括
田中輔	三重大学	アクション
山口春菜	MiddleYouthConferencet中部/たすけあいネットワーク	アンバサダー
上田格	YouthBeyondDisasters日本事務局	アンバサダー
小池宏隆	Japan Youth Platfrom for Sustaianbility	代表理事

ユースサミットプログラム

G7ユースサミットは全大会、分科会、パフォーマンス、トレーニングで構成されました。ユースサミットのプログラムに関してはこちらより。

- **開会式**

開会式ではセッション1とセッション2を設けました。セッション1では、「G7の歴史、アドボカシーと市民社会の重要性、ユースの動き」と題して、動く→動かす事務局長の稲場雅紀氏より講演いただきました。稲場氏は、G7の中における日本の位置づけ、市民社会参画の仕組みとそのタイムスケジュール、CivilG7での対話、最後に国際メディアセンターでの活動予定を紹介されました。その後セッション2ではこ「グローバルとローカル:地球規模課題を解決するパートナーシップとユースが果たす役割」と題して、社会課題にそれぞれの視点、背景で活動する3人を交え、パネルディスカッションを行いました。
開会式の報告書の詳細はこちら。

- **分科会**

G7ユースサミットには、医療、ESD、平和、シリア問題、気候変動、防災をはじめとした13の分科会に対して、15団体が参加しました。各分科会担当の団体はG7と各団体の活動を絡め、参加者と共にG7首脳に向けたG7ユースサミット宣言文の作成を行いました。参加してくれた若者（約140人）に加えJYPSの加盟団体（約200人）からのコメント、提案を通じて民主的かつ包括的な意見の集約し、最終的な宣言文を作成しました。各分科会の報告書は以下の開催団体名からジャンプできます。

時間帯	分野	開催団体
10:30~12:30	医療	Japan HEART’s
10:30~12:30	開発	Oxfam-Japan
10:30~12:30	防災	Youth Beyond Disasters
10:30~12:30	シリア問題	P782 プロジェクト
10:30~12:30	環境と金融	A Seed Japan
10:30~12:30	地域	泉京・垂井 / 名古屋わかもの協

		議会
13:30~15:30	食糧・飢餓	Youth Ending Hunger
13:30~15:30	企業×若者×SDGs	東京工業大学
13:30~15:30	気候変動	Climate Youth Japan
13:30~15:30	若者の政治参画	United Youth
13:30~15:30	パートナーシップ	Wake Up Japan
13:30~15:30	平和	Peace Boat
13:30~15:30	教育	ESD Youth Japan

- **パフォーマンス**

キャンペーンチームは、動く→動かすの関澤さん、大阪在住の書道家徳山さんのご協力の下、参加型書道パフォーマンスを実施しました。徳山さんによる「継」の一文字は、G7ユースサミットの結果を次のユース参画に繋げる、G7ユースサミット参加者の繋がりを次に繋げる意味があるそうです。また、各分科会から1名ずつが代表して、「世界」と「日本」の文字も書きました。最終的に、「世界と日本を「継」ぐ」文字を作成することができました。

- **閉会式**（各団体の報告、ユースサミット宣言文、閉会式、総会）

閉会式では、各分科会主催団体より分科会での成果を発表していただきました。各団体からの報告書は資料として添付しています。その後、G7ユースサミット宣言の簡単な説明と採択、またJYPSの今後の方針について共有しました。その中で、コーディネーターの募集と、理事の選抜を行うこと、JYPSの改革について議論することを共有しました。

ユースサミット宣言文

2016年5月25~26日にG7首脳会議が8年ぶりに日本で開催されるに伴い、開催国である日本に住む若者を中心にユースサミットを開催した。今回のG7は私たちの世界を変革する持続可能な開発のためのアジェンダ2030（以下アジェンダ2030）、気候変動に関するパリ協定（以下パリ協定）、防災のための仙台枠組み(以下仙台枠組み)、開発資金のためのアディスアベバ行動計画（以下アディスアベバ行動計画）採択後初の開催にあたり、日本政府、G7加盟国政府の積極的なコミットメントが期待されている。2016年5月22日、三重大学で開催されたG7ユースサミットは、若者の声を集約し、調整し、訴える場であった。その方法は、民主的なコンセンサスに基づく、オープンな意見の集約による政策提言を機軸にしていた。

市民サミット

2016年5月26~27日、三重県志摩市において、G7伊勢志摩サミットが開催されました。伊勢志摩サミットは、G7各国の政府首脳が世界の重要課題を話し合う場です。世界の課題は地域の課題とつながっており、またその課題の解決には必ず草の根の市民が関わっています。

「市民の伊勢志摩サミット（略称：市民サミット）」は、主要国の政策に市民の視点が反映されるよう、開催地域、国内、海外のNPO/NGOが集まって、テーマごとに市民からの提言をまとめる場です。地域から世界へ市民が手をつなぎ力強い市民社会を形成することで、よりよい地域づくり・国づくり・世界づくりへ貢献す

るために市民サミットを開催しました。Japan Youth Platform for Sustainabilityも23日（月）13時よりユースの分科会を主催し、小池、外池が登壇しました。

JYPSの市民サミットでの分科会の報告書は https://docs.google.com/document/d/1_dRmEokIwD3MN18x2QP6waW9D-uTtDgBav0BC3E99As/edit#から。

Internationa Media Center (IMC)

5月25～27日にかけて、伊勢志摩サミットの国際メディアセンターが三重県営サンアリーナ（三重県伊勢市）に設置されました。三重県営サンアリーナに隣接する「伊勢フットボール・ヴィレッジ」のクラブハウス内にNGOワーキング・スペースが設置され、NGOによる記者会見やブリーフィングが行われました。G7ユースサミットの開催、また市民サミット分科会の主催などを踏まて作成したG7ユースサミット宣言文の発表と、G7伊勢志摩宣言文に対する緊急レスポンスを記者会見を組み、メディアに対して行いました。またその後の国内外の分野横断での市民社会によるG7宣言文の評価の記者会見において行い、ユースとしては5点満点中3点で評価しました。

IMCでの報告書はhttps://drive.google.com/file/d/0B2ZXJwLkpdLfckxvblR0LWZWRjQ/view?usp=sharingから。

ANEX

事前セミナー

◎ G7ユース勉強会@三重大学大学報告書
(https://docs.google.com/document/d/1SPvR4bqOP9FxlztbMIlmHH-LMGIP_RbX8TNA59cU7Jg/edit#)
◎ Civil G7対話（https://docs.google.com/document/d/1F-3W8gq7B1QYy8ikQ-ru6sePCiI6sBpYGK5j_5pL-vw/edit）
◎ 世界開発人口開発議員会議（こちら）
◎ G7サミット勉強会（こちら）

準備資料

- 分科会主催

G7首脳会合およびG7市民サミットに先立って行われる「G7ユースサミット(G7YS)」は、5 月22日(日)に開催される、ユースのユースによるサミットです。このサミットは日本の若者および参加する世界の若者のプライオリティ、要求、そして僕らの取り組みを明確にし伝え、若者のG7や国際問題に関する会議における参画を強化するために行います。

- G7ユースサミット(G7YS)の企画書（https://docs.google.com/document/d/1xlf0wOlWaMhGMP0q8XcRoG_Wf2IBehDvt-NfXQqm2bg/edit?usp=sharing）
- 分科会応募フォーム（https://docs.google.com/forms/d/1crJVOSxJm2lv6a-RQlgehBk_Wb4Zf_XbYhiBgxxfdPw/edit）
- 主催団体紹介(http://japanyouthplatform.wix.com/jyps#!blank-2/yce9g)
- チラシ（https://drive.google.com/file/d/0B2GqdyH4h8k5ZnhFajl3R2QtSkU/view?usp=sharing）

メディアリーチ

2016/4/12 時事ドットコム 5月22日（日）G7ユースサミット開催のお知らせ
2016/4/12 読売新聞（中部ニュース） ※掲載終了
2016/4/12 PR TIMES 5月22日（日）G7ユースサミット開催のお知らせ
2016/4/12 産経ニュース 5月22日（日）G7ユースサミット開催のお知らせ
2016/4/12 朝日新聞デジタル 5月22日（日）G7ユースサミット開催のお知らせ
2016/5/2 Yahoo! news 伊勢志摩サミットに先駆け、「G7ユースサミット」
2016/5/2 オルタナS 伊勢志摩サミットに先駆け、「G7ユースサミット」
2016/5/19 中日新聞 若者も未来を議論 三重大で二つの「サミット」
2016/5/22 名古屋テレビ 17:45~ニュース報道
2016/5/23 毎日新聞 伊勢志摩サミット2016:相互理解へ交流の場 ユースサミット政策提言
2016/5/23 中日新聞 三重大で「G7ユースサミット」国際社会の課題を議論
2016/5/23 三重テレビ G7ユースサミット若者ら意見交わす
2016/5/27 徳島新聞 G7ユースサミットなど ナーサリー園児製作、英字新聞をメディアに配る

SNS投稿

ここに投稿ページのヘッドとリンク

「参加予定の方・興味ありの方ありがとうございます!」
https://www.facebook.com/events/1726989400846010/permalink/1733621506849466/

「G7ユース宣言でプレッシャー？」

https://www.facebook.com/events/1726989400846010/permalink/1733941516817465/

「連載記事はじめます！」

https://www.facebook.com/events/1726989400846010/permalink/1734427423435541/

「過去の事例・ESDユース・ステートメント！」
https://www.facebook.com/events/1726989400846010/permalink/1734655243412759/

「【会場情報】三重大学 - 世界に誇れる環境先進大学??」
https://www.facebook.com/events/1726989400846010/permalink/1735307596680857/

【G7 Youth Network 運営委員 紹介！】
https://www.facebook.com/events/1726989400846010/permalink/1736527833225500/

【連載記事第1弾】G7（先進国首脳会議）とは？】
https://www.facebook.com/events/1726989400846010/permalink/1736569503221333/

【G7 Youth Network 運営委員 2人目 紹介】
https://www.facebook.com/events/1726989400846010/permalink/1737542373124046/

【G7 Youth Network 運営委員 3人目 紹介】
https://www.facebook.com/events/1726989400846010/permalink/1737856583092625/

【G7 Youth Network 運営委員 4人目 紹介】
https://www.facebook.com/events/1726989400846010/permalink/1738396613038622/

【G7 Youth Network 運営委員 5人目 紹介】
https://www.facebook.com/events/1726989400846010/permalink/1738710793007204/

【G7 Youth Network 運営委員 6人目 紹介】
https://www.facebook.com/events/1726989400846010/permalink/1738821979662752/

【G7 Youth Network 運営委員 7人目 紹介】
https://www.facebook.com/events/1726989400846010/permalink/1739535146258102/

【G7 Youth Network 運営委員 8人目 紹介】
https://www.facebook.com/events/1726989400846010/permalink/1739788756232741/

【G7 Youth Network 運営委員 9人目 紹介】
https://www.facebook.com/events/1726989400846010/permalink/1740202866191330/

【G7 Youth Network 運営委員 10人目 紹介】
https://www.facebook.com/events/1726989400846010/permalink/1740380209506929/

【連載記事第2弾】　G7伊勢志摩サミット
https://www.facebook.com/events/1726989400846010/permalink/1740402042838079/

【G7 Youth Network 運営委員 11人目 紹介】
https://www.facebook.com/events/1726989400846010/permalink/1740779009467049/

【G7 Youth Network 運営委員 12人目 紹介】
https://www.facebook.com/events/1726989400846010/permalink/1741125456099071/

【G7 Youth Network 運営委員 13人目 紹介】
https://www.facebook.com/events/1726989400846010/permalink/1741801366031480/

【連載記事第3弾】　NGOの動き
https://www.facebook.com/events/1726989400846010/permalink/1744270795784537/

【G7ユースサミットの紹介】
https://www.facebook.com/events/1726989400846010/permalink/1744875379057412/

【連載記事第4弾】 G7 Youth Networkとは
https://www.facebook.com/events/1726989400846010/permalink/1745637272314556/

【連載記事第5弾】G7ユースサミットの内容
https://www.facebook.com/events/1726989400846010/permalink/1746433368901613/

【連載記事第6弾】G7の議題「世界経済・貿易」
https://www.facebook.com/events/1726989400846010/permalink/1747276485483968/

【連載記事第7弾】G7の議題「政治・外交問題」
https://www.facebook.com/events/1726989400846010/permalink/1747969572081326/

【G7 Youth Network 運営委員 14人目 紹介】
https://www.facebook.com/events/1726989400846010/permalink/1748604938684456/

「必読！」（ではありませんが。。。）
https://www.facebook.com/events/1726989400846010/permalink/1748653792012904/

「気軽にゆる~く、Love and Peace^^」
https://www.facebook.com/events/1726989400846010/permalink/1749081541970129/

「１０年後にむけて世界を変える」
https://www.facebook.com/events/1726989400846010/permalink/1749381228606827/

【連載記事第8弾】「気候変動・エネルギー」
https://www.facebook.com/events/1726989400846010/permalink/1750113668533583/

【G7ユースサミット分科会開催団体の決定】
https://www.facebook.com/events/1726989400846010/permalink/1750230478521902/

【分科会開催団体紹介】①HEART's

https://www.facebook.com/events/1726989400846010/permalink/1750431691835114/

【分科会開催団体紹介】②A SEED　JAPAN
https://www.facebook.com/events/1726989400846010/permalink/1750503178494632/

【分科会開催団体紹介】③Climate Youth Japan

https://www.facebook.com/events/1726989400846010/permalink/1750712778473672/

【分科会開催団体紹介】④P782プロジェクト

https://www.facebook.com/events/1726989400846010/permalink/1750928071785476/

【分科会開催団体紹介】⑤Peace boat

https://www.facebook.com/events/1726989400846010/permalink/1751067498438200/

【分科会開催団体紹介】⑥Youth Beyond Disasters

https://www.facebook.com/events/1726989400846010/permalink/1751325858412364/

【分科会開催団体紹介】⑦Oxfam Japan

https://www.facebook.com/events/1726989400846010/permalink/1751510008393949/

【分科会開催団体紹介⑧Wake Up Japan

https://www.facebook.com/events/1726989400846010/permalink/1751757461702537/

【連載記事第9弾】G7の議題「開発」

https://www.facebook.com/events/1726989400846010/permalink/1752063265005290/

【宣言文ドラフトついに解禁！！】
https://www.facebook.com/events/1726989400846010/permalink/1752257861652497/

【分科会開催団体紹介】10: ESD Youth Japan

https://www.facebook.com/events/1726989400846010/permalink/1752316164980000/

【分科会開催団体紹介】11:名古屋わかもの会議
https://www.facebook.com/events/1726989400846010/permalink/1752503741627909/

【分科会開催団体紹介】12.NPO法人泉京・垂井
https://www.facebook.com/events/1726989400846010/permalink/1752567724954844/

【分科会開催団体紹介】13:United Youth

https://www.facebook.com/events/1726989400846010/permalink/1752790374932579/

【分科会開催団体紹介】14.企業×若者×SDGs

https://www.facebook.com/events/1726989400846010/permalink/1752844368260513/

【G7ユースサミット参加予定の皆様へ】

https://www.facebook.com/events/1726989400846010/permalink/1753531188191831/

G7ユースサミット参加者の皆様へ
https://www.facebook.com/events/1726989400846010/permalink/1753721268172823/

おはようございます！

https://www.facebook.com/events/1726989400846010/permalink/1753831388161811/

受付開始しました！
https://www.facebook.com/events/1726989400846010/permalink/1753848354826781/

G7ユースサミット始まりました！
https://www.facebook.com/events/1726989400846010/permalink/1753864618158488/

【当日のTime schedule変更のお知らせ】
https://www.facebook.com/events/1726989400846010/permalink/1753902238154726/

【書道パフォーマンスやっています！！】
https://www.facebook.com/events/1726989400846010/permalink/1753941048150845/

【国際メディアセンター(IMC)、ついにオープン！】
https://www.facebook.com/events/1726989400846010/permalink/1754986944712922/

【G7ユースサミットメディア掲載情報】
https://www.facebook.com/events/1726989400846010/permalink/1755187768026173/

J.Y.P.S.

Japan Youth Platform for Sustainability

「2016年 G7 Youth Network」運営委員募集

2008年G8洞爺湖サミット以来8年ぶりのG7サミットが2016年5月に三重県志摩市で開催されます。2016年のG7伊勢志摩サミットは、世界GDPの半分を占め、政府開発援助(ODA)額の上位5ヶ国を含む7ヶ国の首脳が集まる機会であり、経済、政治、開発の問題を議論する機会です。

2015年は3月の『仙台防災枠組み 2015-2030』、9月の『我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ』、そして12月の『気候変動枠組み条約締結国会課21回会合（COP21）』など国際的なダイナミズムがある中で、2016年の伊勢志摩サミットは、防災、開発・持続可能な社会、環境などの議題を扱う初めてのサミットとして位置づけられています。

またこのように大規模で、かつ15年後を見据えた長期の枠組みの実施にあたり、ユースの参画が非常に重要になってきています。持続可能な社会を実現するためには、将来世代のニーズもきちんと配慮されなければなりませんし、そのための世代間公平感の達成は急務です。G7 Youth Networkは上記のような国際的目標、また国内での問題解決をG7サミット諸国から示されることを求めています。また開催国である日本が今地球規模の課題に対する責任と行動を示すことを求めています。

上記の活動を行うにあたりG7 Youth Network運営委員会は、G7ユースサミット開催（2016年5月22日）とそれに向けた活動における幅広い若者主導のパートナーシップをコーディネートするために設立されました。活動期間は暫定的にG7首脳会合（2016年5月27日）までを予定しています。

本ネットワークの活動は以下の通りです。

① G7という機会を通じ、日本の若者に以下を伝える
　1.グローバルイシューと自分たちの関わりがあること
　2.そのような問題に対し、声をあげ、世の中を変えられる方法があること（アドボカシー）
　3.そのような問題を自分事としてできることに気づき、実践をしていくこと（ローカライズとアクション）
② G7伊勢志摩サミットに関する公開イベントを開催する = <<<G7ユースサミットの開催>>>
③ G7伊勢志摩サミットに関心を持つ海外の市民組織と連絡・調整・情報提供を行う
④ G7伊勢志摩サミット開催まで、また開催後に日本政府間組織と意見交換を実施する

実行委員会は主に
A) アドボカシー
B) アウトリーチ・キャンペーン
C) アクション
で構成されます。

アドボカシーチームは、G7で議論されべき内容を多くの若者団体と共同しながら訴え、成果物における若者の声の反映を目指します。

アウトリーチ・キャンペーンチームは、少しでも多くの若者がG7について興味関心を持ち、自分に何ができるのかを考えるきっかけを作ります。また、学び、自分がどう関わることができるのかを知ってもらうために活動します。イベント企画運営開催からソーシャルメディア戦略などの広報を等幅広く担います。
アクションチームは、主にG7ユースサミット(2016年5月22日)を成功させるために必要なあらゆること(事務作業、会場セッティング、プログラム、裏方作業etc)を担います。大きなインパクトを生むためには一番必要不可欠な役割です。

活動の様々な場面で大胆に柔軟に動くことのある役割であり、問題意識とやる気のある若者を大募集中です！質問があれば以下にお問い合わせください。

申し込み期限は:3月5日です。

初めての方でも大歓迎ですので、率直に以下記入いただければ幸いです。すべての皆さまがG7ユースサミットワーキンググループに参加できますので、ご安心ください。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
Japan Youth Platform for Sustainability
E-mail: japanyouthplatform@gmail.com
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

*必須

氏名 *

生年月日 *

年 / 月 / 日

所属団体（なければなしとお書きください。）*

性別（どう自分を定義しますか）*

- 男性
- 女性
- その他

メールアドレス *

大学名 *

所属団体のウェブサイトもしくはSNS

G7について知っていること、関心があることを教えてください。*

なぜ応募しようと思ったのか教えてください。*

これまでの経歴と自分の強みについて教えてください。*

申し込みをすることで、今後情報共有や政策提言活動のため、**JYPS**のメーリングリストに登録します。*

- はい

送信

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

Powered by Google Forms

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。

不正行為の報告 - 利用規約 - 追加規約

チーム希望届

*必須

名前 *

回答を入力

メールアドレス *

回答を入力

どのチームに一番入りたいですか *

選択

どのチームに次に入りたいですか *

選択

送信

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このフォームは UN Major Group of Children and Youth/Children Youth International 内部で作成されました。不正行為の報告 - 利用規約 - 追加規約

Google Forms

G7ユースサミット開会式報告書

セッション１

「G7の歴史、アドボカシーと市民社会の重要性、ユースの動き」と題して、動く→動かす事務局長の稲場雅紀氏より講演いただきました。稲場氏は、G7の中における日本に位置づけ、市民社会参画の仕組みとそのタイムスケジュール、CivilG7での対話、最後に国際メディアセンターでの活動予定を紹介されました。特にG7においては人口第二位、GDP第二位、面積第四位である日本の、多くの人が思っているよりも大きな重要性を踏まえたうえで、日本の市民社会がどう日本政府に対して働きかけを行ってきたかということで、安倍総理のシェルパを務める長嶺外務審議官と、G7に取り組む市民社会を率いるNGOリーダーを米・加から招聘して「G7プラットフォーム設立記念シンポ開催（15年12月14日）や、3月23日ー24日で開催した、Civil G7の模様を共有頂きました。まだまだイメージがわきにくい中で、国際メディアセンターでNGOが書道家によるパフォーマンスやUHCスーパーヒーローなどの企画は、視覚的にわかりやすい具体例になりました。これらを踏まえて、「世界はなかなか変わらないが、しかし、変わるときは変わる。そのとき、世界を「変える側」にいたのか、チェンジメーカーとしての役割を果たしたのかどうかが問われる。ユースは良くも悪くも、いつでも世界を「変える」原動力だ」というメッセージは力強く響きました。

その後、JYPS代表理事の小池宏隆より、ユースの動きということで、前出の稲場氏の話をより具体的にしていく、ユースにとって現実味あるものにしていくという文脈で、若者がどのように国連の政策提言に関わってきたかと若者が政策提言において強くなるためには力

強いプラットフォームがなければならないという文脈で、JYPSの仕組みの紹介をしました。小池氏によると、持続可能な開発目標の策定プロセスにおいて、若者はメジャーグループという、自律自治を基本として、国連決議から役割を与えられているプラットフォームを通じて活発に関わってきました。そして、そのようなプラットフォームが他の企業のようなNGOたちとも対等に、として声の正当性と代表制をもって交渉に挑む鍵であるとし、国内でもそれを作り上げていく必要を訴えました。特に、具体的な交渉草案に若者が提言してきた内容が反映されているところは、目に見えにくい政策提言の効果がよくわかる瞬間でありました。アドボカシーというのは、根本的に「してあげる思想」ではなくて、そのしてあげないと何とかならないように人々を社会のふちに追いやすその社会を変えることが重要であるというメッセージは、政策提言に関わってみたい若者には大きなメッセージになったと思います。

セッション２

登壇者
◎動く→動かす事務局長　稲場雅紀
◎毎日新聞記者　町田結子
◎三重大学環境ISO学生委員会　中村智彦
◎Japan Youth Platform for Sustainability　小池宏隆　（ファシリテーター）

このセッションでは、「グローバルとローカル:地球規模課題を解決するパートナーシップとユースが果たす役割」と題して、以下の二点の質問を投げかけました。

1. 地球規模課題を国際、国内や地域にて解決するうえで、どのような課題が自分たちのセクターにあり、どのような役割を果たすべきと考えているか？

2. 上記のような課題と役割に対し、どのような連携をほかのステークホルダーとしているのか、していきたいのか？特に若者との文脈では？

稲場さんは、課題として、どのようにMDGsという国外開発の文脈だけでよかったネットワークを、SDGsという国内も国外も全部やる枠組みに対応するネットワークへと進化させられるかということをあげました。SDGsがほかのセクターとも共同しなければならないことを踏まえ、ネットワーク拡大の上での課題はと問われると、残念だと思った経験であることとして「短絡的なところに飛びついて答えを考えてしまうこと」と、そもそもそのような問題を生み出す構造を変えようというところに議論がいかないことと教えてくれま

した。富を持つものがあまりにも強すぎて、議論が倒さずにできることからやっていこうという流れとなり、それに抗っていると、我々（NGOたち）対その他すべてということになってしまう難しさを共有されました。そのうえで、特にユースを巻き込みながら、広く議論を喚起していくことが、変える側に立つ人を増やすとはなされました。

町田さんは、地球規模課題が実は地域にある課題でもあること、例えば世界経済と気候変動などが日本の農水産業に大きな影響があること、などを踏まえて、それを主人公を定めながら、広く伝えていけるようにしたいと考えているとのことでした。そのような事例や話を見つけていく中で、情報の多くを市民団体に共有してもらっているということで、市民団体が地域に密着していることに注目し、メディアも市民団体とかと協力していかないといけないという話でした。「主人公」だけに着目すると、伝えたいことが損なわれるのではという質問に対しては、主人公の悩みが共感されなければ記事にならないので、そのような主人公を通して、その人が抱えている問題が実は焦点があてられているいると答えました。

中村さんは、彼が海岸掃除や小学校で総合の時間をつくたって環境教育に携わっていることから、広く環境マインドを作り上げていくことの重要性とそれの難しさを共有してくれました。そのうえで、”Think Globally Act Locally”という言葉を紹介してくれた上で、ただ海岸清掃をやるだけじゃなくて、その背後にある問題や課題を一緒になって共有しながら、地域全体のつながりを強めていくことが重要であり、若者は特に地域の活性化には必要不可欠であると述べました。

「G7 ユースサミット（略称：G7YS）」の開催に関する
分科会報告書

記入日 2016 年 5 月 28 日

G7 ユースサミット分科会開催に当たり、分科会報告書を A4 で 1～2 枚程度お願いしております。基本的なフォーマットは以下の様式ですが、基本的に自由形式としております。〆切は今週の 28 日（土）です。

分科会担当団体種別 ※いずれかに✓	☑任意団体　　□NPO 法人 □その他法人（　　）
フリガナ	ハーツ
団体名	NPO 法人ジャパンハート HEART’s
分科会担当名 *複数いる場合全員記入	河原崎温奈、鈴木裕紀子
E-mail	japanheart.student@gmail.com
担当時間	☑午前　　□午後

２　分科会内における提言発表について

分科会概要	1　分科会のまとめ ミャンマーでは様々な理由から親元を離れて養育施設で育てられている子どもが多くいます。しかし、養護施設に入ることで食事や安全面で生活が改善される一方、管理体制の不備やケアギバーの教育不足から子どもにとって満足な環境になっているとは言えない現実があります。そこで今回の分科会では、参加者と共にミャンマー全体の施設の状況を学び、理想的な施設を考えることで子どもの生活環境の向上のためにできることを考えることにしました。 まず、社会福祉省と UNICEF が実施した、ミャンマーの養育施設の実態に関する調査結果をもとに、ジャパンハートが支援するヤンゴンの養護施設「ドリームトレイン」の状況を参加者に知ってもらいました。「子どもたちに本当に必要な養育施設とは何か」ということに関して、グループワーク形式で進めました。①ミャンマーの養育施設の問題は何か。②どんな施設が理想か。③理想の施設に近づけるために G７や日本政府に要求することは何か。④自分たちにできることは何

「G7 ユースサミット（略称：G7YS）」の開催に関する
分科会報告書

記入日 2016 年　6 月　1 日

G7 ユースサミット分科会開催に当たり、分科会報告書を A4 で 1～2 枚程度お願いしております。基本的なフォーマットは以下の様式ですが、基本的に自由形式としております。〆切は今週の 28 日（土）です。

分科会担当 団体種別 ※いずれかに✓	□任意団体　　☑NPO 法人 □その他法人（　　）
フリガナ	トクテイヒエイリカツドウホウジン
団体名	特定非営利活動法人 オックスファム・ジャパン
分科会担当名 *複数いる場合 全員記入	鈴木 洋一
E-mail	yoichi@oxfam.jp
担当時間	☑午前　　□午後

２　分科会内における提言発表について

分科会概要	①　分科会のまとめ 冒頭にて、社会の変え方に関する説明、過去の G8 などに対する若者からの提言内容に関する総括を行ったうえで、日本にいる若者の特徴としての諸外国の若者との連携不足、国内での連携不足についての問題意識を共有した。 そのうえで、誰もが社会を変えていくために前提として必要となる理想の社会像に対しての認識共有を行った。 ②　問題は何か 前提となる「理想の社会像」の構築が行えていないこと、対話環境の不備、人のことを知れる機会などが参加者からの声として集まった。 ③　その問題をどう解決するかの あるべき社会のイメージと個々人が自らの抱えている課題について話し合う機会をつくっていくこと ④　　①と②を踏まえたうえで、どう G7 や日本政府に提言していくか なし

「G7 ユースサミット（略称：G7YS）」の開催に関する
分科会報告書

記入日 2016 年 5 月 28 日

G7 ユースサミット分科会開催に当たり、分科会報告書を A4 で 1～2 枚程度お願いしております。基本的なフォーマットは以下の様式ですが、基本的に自由形式としております。〆切は今週の 28 日（土）です。

分科会担当 団体種別 ※いずれかに✓	☑任意団体　　□NPO 法人 □その他法人（　　）
フリガナ	ユースビヨンドディザスターズ ニホンジムキョク
団体名	Youth Beyond Disasters 日本事務局
分科会担当名 *複数いる場合 全員記入	上田格 / 山口春菜 / 服部拓也
E-mail	i.ueda.t6@gmail.com
担当時間	☑午前　　□午後

2　分科会内における提言発表について

分科会概要	①　分科会の概要 まず、我々の分科会では昨年仙台で行われた第 3 回国連防災世界会議における Children＆Youth Forum の日本ユース企画にて「日本人ユースが防災に対してどうあるべきか」という指針として採択された 「若者防災宣言」を基にして行われた。 本分科会の目的としてはその「若者防災宣言」を日本のユースだけでなく G7 各国のユースに対しても示せる指針とし、今までの「若者防災宣言」に加えて新たな要素を盛り込むことで新しい提言を行うことを目的に行われた そのために本分科会では以下のことを行った 1. 参加者に対して Youth Beyond Disasters (YBD)とは何か説明を行った。 2. 活発な議論を行うためにアイスブレイクをして参加者の緊張を解した。 3. 参加者を 4 つのチームに分け、各チーム G7 の 7 ヶ国のうち 1,2 ヶ国の災害情報や基本情報が配られた。 4. その後参加者は配布された国のユースになりきり、「その国の特徴的な災害に対してユースは防災・減災のためにどんなことができるのか」ということを

40 分間話し合い、模造紙にそのユースの役割を書いてもらった。

5. 次に参加者全体を 3 チームに組みなおし、先ほど書いてもらった「各国におけるユースの役割」から「G7 のユース全体に共通して言えること」を 30 分で抽出してもらい、新たな模造紙にその役割を書いてもらった。
6. 最後に先ほど話し合って抽出してもらった「G7 ユースの役割」を各チーム 5 分ほどで発表してもらった。

② 分科会の成果

分科会の成果として挙げられた「G7 のユースとしての防災･減災における役割」の追加提言は以下の３点である。

- 子供を通した社会全体の防災教育を行う
  - ユースという子供からも接しやすい立場から防災教育を行う。そして子供が防災を学ぶことで大人やさらにはその家族の周りのコミュニティへの防災に関する関心を高める
- 行政とユースの協働を行う
  - 地方のコミュニティに積極的に関わるユースと行政が防災に関する取り組みを行うことで若者をハブとして地域と行政のコミュニティの活性化を図ることが可能である。その活性化により地域のコミュニティにおける自発的な防災・減災を行うことが可能であるだけでなく、行政としては地域防災などの政策を作成するだけでなくその確実な実行を行うことが可能である。
    例えばユースが主導しハザードマップを主体的に作成するなど。
- 行政からのユースへの資金面でのサポート
  - 防災に主体的に活動するユースは活動力と柔軟な思考を持つが、資金面での活動の制限があり、活動が円滑に行えない。そこで行政からのサポートを受けるとより主体的な防災のためのユース活動ないしは子供・ユースを通した大人への訴えを行うことが可能であると考えている。

「G7 ユースサミット（略称：G7YS）」の開催に関する
分科会報告書

記入日　2016　年　5　月　28　日

G7 ユースサミット分科会開催に当たり、分科会報告書を A4 で 1～2 枚程度お願いしております。基本的なフォーマットは以下の様式ですが、基本的に自由形式としております。〆切は今週の 28 日（土）です。

分科会担当団体種別 ※いずれかに✓	☑□任意団体　　□NPO 法人 □その他法人（　　）
フリガナ	ピーナナハチニプロジェクト
団体名	P782 プロジェクト
分科会担当名 *複数いる場合全員記入	青木優奈、松本祐輝、清水広美、大川梨恵、権巳愛、栗山智帆、大竹菜緒
E-mail	nao.otake1994@gmail.com
担当時間	☑□午前　　□午後

２　分科会内における提言発表について

分科会概要	①　分科会のまとめ 分科会には 30 名程度のユースや報道の方にお集まりいただきました。分科会内容としては、シリアの現状共有、政策提言内容の発表を行いました。また隣国ヨルダンでシリア人の支援活動を続けるシリア支援団体サダーカの田村代表より第三国定住を多くのシリア人が望んでいないというエピソードから、紛争停止の重要性をお話しいただきました。 提言発表としては、以下の 3 つです。 ①現在の第三国定住事業を拡大し、シリア人を対象とする事業を展開する →現在の日本ではミャンマー人しか対象になっておらず、難民申請者数を鑑みるとシリア人にも事業を拡大するべきであると考えます。 ②奨学金プログラムによる大学生および大学院生の受け入れ →ユースサミットの前日に安倍首相がシリア人留学生を 5 年間で最大 150 人受け入れる政策を発表したことも含め、今後受け入れを実現するために日本社会の準備が必要であることも言及しました。

③難民申請をしたシリア人に対する保護の提供と紛争解決への努力

→日本が中東地域に対して特別な利害を保持しない立場にいることは、紛争停止に向けた非軍事的解決に際してリーダーシップを取るなど、大きい役割を担うことができると考えます。

② 問題は何か
中東諸国の 1 つであるシリアでは 2011 年 3 月から 5 年間、現在も紛争が続いています。政府軍と反政府軍のみならず、イスラム過激派組織の勢力や、米国・ロシアといった大国の利害関係も絡んでおり、複雑な対立構造が存在しています。

問題 1: 終わらない紛争
シリア紛争はもはやシリア国内では解決できない状態になっています。現在も、米露合意のもと停戦決議が協議されていますが、利害関係が絡みうまく進行しておらず、シリア国内では空爆がさらに激しさを増し、一般人を含む犠牲者が多数出ている地域もあります。

問題 2:「シリア難民」の発生
長引く紛争の中、シリアの人々は安全を求め、近隣国や欧州に避難しています。約 483 万人（2016 年 5 月現在）のシリア人が国外に避難し、約 760 万人（2015 年 7 月現在）はシリア国内で避難民として生活を送っています（UNHCR 公式 HP より）。総計するとシリア人の約半数は家を失っている状態という、「21 世紀最大の人道危機」とも呼ばれるまでになっています。

問題 3:「シリア難民」に対する保護・支援の不足、生活状況の悪化
近隣国へ避難しているシリア人が急激に増加し、近隣国政府や国連機関は対応に追いついていません。シリア人の中には難民登録ができず国連からの支援を受けることができていなかったり、受けることができていても支援金が十分でなく、生活状況は悪化しています。

問題 4: 日本におけるシリア難民受け入れと課題
シリアの状況が悪化した 2011 年の初頭から 2015 年までの間に、約 65 名のシリア人が難民申請をしています。また報道によると、2015 年 12 月の段階で、それらの申請者のうち、6 名が難民認定を受けています。それ以外の大多数の申請者については、いわゆる人道的配慮に基づく在留特別許可が与えられていますが、難民に対して行っている日本語研修等の定住支援を受けることはできていません。また、家族を日本に呼び寄せることが難しく、家族一緒に暮らすことを文化としてきたシリア人にとっては耐え難い状況となっています。 その他、ビジネスや留学で来日したものの、シリアの人道危機が理由で帰国できず、在留を延長し続けている人も存在します。

③ その問題をどう解決するか
①現在の第三国定住事業を拡大し、シリア人を対象とする事業を展開する
②奨学金プログラムによる大学生および大学院生の受け入れ
③難民申請をしたシリア人に対する保護の提供と紛争解決への努力

④ ①と②を踏まえたうえで、どう G7 や日本政府に提言していくか
4 月には「昨今のシリア危機的状況に対し、日本社会の向き合い方を考える機会の創造」を目的に、自民党・民進党・公明党など超党派議員 6 名と対話集会を行い、提言書を提出しました。 今後も、さらに多くの大学生や議員を巻き込み、

	定期的に考える場を設け、継続して活動を行っていきます。

「G7 ユースサミット（略称：G7YS）」の開催に関する
分科会報告書

記入日 2016 年 5 月 28 日

G7 ユースサミット分科会開催に当たり、分科会報告書を A4 で 1～2 枚程度お願いしております。基本的なフォーマットは以下の様式ですが、基本的に自由形式としております。〆切は今週の 28 日（土）です。

分科会担当 団体種別 ※いずれかに✓	☑任意団体　☑NPO 法人 ☐その他法人（　　）
フリガナ	エヌピーオーホウジンセント・タルイ
団体名	NPO 法人泉京・垂井
分科会担当名 *複数いる場合 全員記入	名古屋わかもの会議
E-mail	Koohee16@yahoo.co.jp
担当時間	☑午前　☐午後

２　分科会内における提言発表について

分科会概要	① 分科会のまとめ 「ユースの地域における課題」「ユースの地域における役割」をディスカッション形式で、参加者主体で話し合い、地域分科会における宣言文を作成した。 ② 問題は何か 問題について下記の案が参加者から出た。 ・地域課題への意識が低く、行動が少ないこと ・多様な人が様々な価値観を共有する居場所がないこと ・地域で見えない声を拾い上げられていないこと、かつ発信できていないこと。 ③ その問題をどう解決するかの 解決策について下記の案が出た。 ・ユースに危機感を感じてもらい、一方で楽しそうだと思わせ、効果が期待できる機会を設けることで、若者が若者を巻き込む。 ・多様な人が様々な価値観を共有する居場所を作る。 ・地元に入り込む、10,000 人に 1 人しか考えてないニーズや価値を見つけ出す、SNS やメディアで世界に発信する。 ④　①と②を踏まえたうえで、どう G7 や日本政府に提言していくか 政府、G7 への提言のみならず、宣言文を出したように、私たちユースが具体的な行動を示すことが、提言するための必要な行動であると認識している。今回はユースにおける地域の課題、役割を洗い出し、具体的に動き出すための目出しを行

	った。ここから実際に動きだし、地域に入っていくことが重要となる。そのため、具体的に活動に移すための場を 6 月 25 日（土）に設定した。6 月 25 日（土）は泉京・垂井の事業「あどぼの学校シンポジウム」実施予定日であり、サミット報告会も行われる。具体的には分科会を担当した名古屋、垂井の地域に入ること、地域に入り何をするのか、どういった活動がされているのかなど、分科会で紹介した地域での活動の詳細、今後の計画をたてる場とする。

「G7 ユースサミット（略称：G7YS）」の開催に関する
分科会報告書

記入日　2016　年　　5 月　28　日

G7 ユースサミット分科会開催に当たり、分科会報告書を A4 で 1～2 枚程度お願いしております。基本的なフォーマットは以下の様式ですが、基本的に自由形式としております。〆切は今週の 28 日（土）です。

分科会担当団体種別 ※いずれかに✓	□任意団体　　□NPO 法人 ☑その他法人(NGO HFW の青少年組織　　)
フリガナ	
団体名	ユース・エンディング・ハンガー
分科会担当名 *複数いる場合全員記入	大塚　絵美華
E-mail	info@youthendinghunger.net
担当時間	□午前　　☑午後

２　分科会内における提言発表について

分科会概要	①　分科会のまとめ 対象者を飢餓問題に関心はあるが、具体的な実態や解決策などへの理解は少ない人々に設定し、これから具体的なアクションをとっていく上でのファーストステップとなるよう自分達で考えることを重視した分科会を目指した。自団体が支援する慢性的飢餓についての説明後、具体的な飢餓地域の現状をイメージしやすくするため、海外支部の一つであるバングラデシュ支部と skype をつなげ、バングラデシュ国内の社会問題と飢餓との関連性について説明をうけた。前半部での情報のインプットを受け、後半部では参加者が実際に若者として慢性的飢餓に向け何ができるのか、そして各方面にどのように働きかけていけるのかについて議論をしてもらった。具体性、実現性を求めるのではなく、アイデアを出し、話し合うということに比重を置いて運営した。

	② 問題は何か ・全世界人口の 25%（約 18 億人）を占める若者は、次世代の発展に重要な役割を担うのにも関わらず、飢餓によって死亡したり、生活困窮に陥り、将来の地域の発展に貢献できていない。 ・慢性的飢餓解決に向けた支援計画における長期的視点の不足 ・世界規模の異常気象によって、食料生産が不安定となっているにも関わらず、世界人口は増加の一途をたどっており、絶対量的観点からも全世界人口への十分な食料確保が難しくなる。（現在は全世界人口を賄うだけの食料は生産されているが、分配やアクセスが問題となって飽食と飢餓という相反する状況が発生している。） ③ その問題をどう解決するかの ・物的支援だけではない、飢餓の構造的解決に向けた教育支援、職業訓練などの長期的支援計画の作成 ・支援を実施する政府や NGO などと現地の人々との間の信頼関係の構築、専門性をもった現地人の育成により、自立支援活動を円滑に行えるようにする。 ・先進国内でのフードロスを減らし、行き渡るべき地域に食料が渡るようにする。 ④ ①と②を踏まえたうえで、どう G7 や日本政府に提言していくか G7 に対して ・物的支援も含めた飢餓の構造的解決に向けた長期的支援計画の作成と成果のモニタリングの実施 ・途上国支援、特にインフラストラクチャー整備に対する予算の拡充 ・フランスのスーパーにおける食料廃棄禁止法に習い、外食産業の食料廃棄を減らすことを可能とする法整備を行う 日本政府に対して ・NGO や BOP ビジネスを行う企業への金銭的補助など官民一体となって途上国支援を行う

「G7 ユースサミット（略称：G7YS）」の開催に関する
分科会報告書

記入日　2016 年　5 月　27 日

G7 ユースサミット分科会開催に当たり、分科会報告書を A4 で 1～2 枚程度お願いしております。基本的なフォーマットは以下の様式ですが、基本的に自由形式としております。〆切は今週の 28 日（土）です。

分科会担当団体種別 ※いずれかに✓	□任意団体　□NPO 法人 □その他法人（　　）
フリガナ	
団体名	国立大学法人　東京工業大学
分科会担当名 *複数いる場合全員記入	早川有香
E-mail	haya@valdes.titech.ac.jp
担当時間	□午前　✓午後

２　分科会内における提言発表について

分科会概要	＜分科会＞ 防災・減災に対応したレジリエントで持続可能な社会構築に向けた企業とユースの役割とステークホルダー連携 ＜目的＞ 本分科会では、UNISDR に民間セクターとして参画している企業及びユースによる活動紹介を通じて、それぞれの主張の違い等に着目しながら、国際的な防災・減災の議論における企業やユースの役割を理解する。さらに、身近な防災・減災に関する課題を認識するとともに、日本における防災・減災の課題やレジリエントで持続可能な社会の実現に向けたユースの果たすべき役割やステークホルダー間の連携について、参加者との意見交換を実施する。

＜内容＞

- 概要説明：SDGs における防災・減災及びステークホルダーの参画
  東京工業大学　早川 有香

- 講演：防災・減災における企業の貢献
  国際航業株式会社　阿部 嘉子
  （内容）
  1. 国際航業様の防災・減災における取組
  2. UNISDR における民間グループの役割と国際航業様の関わり
  3. 日本における防災・減災に関する課題
  4. レジリエントで持続可能な社会を実現するために若者に期待すること

- 講演：防災・減災におけるユースの貢献
  Japan Youth Platform for Sustainability／ Youth Beyond Disasters 日本事務局
  上田　格
  （内容）
  1. UNISDR でユースグループが主張してきたこと
  2. 日本における防災・減災に関する課題
  3. レジリエントで持続可能な社会を実現するために若者が果たすべき役割

- グループディスカッション：防災・減災におけるユース・企業の役割と連携
  1. 参加者の出身地別にグループをつくる
  2. 出身地（出身地域）の特産品あるいはいちばん経済を担っている業種をひとつ選ぶ
  3. 「その特産品あるいは主産業を支える条件はなにか」について考える
  4. 災害時に想定される被害を考える
  5. 災害の被害（リスク）を低減し、一日も早く復旧するための予防策（ユース・企業それぞれができること、両者の連携によって可能になること）

- 全体共有、講演者よりコメント

＜G7 ユースサミット宣言文への貢献＞

本分科会でのディスカッションを踏まえ、以下の文を『G7 ユースサミット宣言文』に追記した。

防災・減災分野において重要なステークホルダーである企業とユースの役割に着目し、特に災害リスクの低減における協働が促進できると考える。たとえば、企業とユースが地域の災害リスクの調査や教育啓蒙を協力・分担して実施するなど、それぞれのノウハウや知識、人的・物的リソースの特性を活用する協働の形があると思われる。災害リスク低減と強靭な社会の構築において、企業含むさまざまな社会の構成要素をつなげる横串としてユースを積極的に活用してほしい。

「G7 ユースサミット（略称：G7YS）」の開催に関する
分科会報告書

記入日　2016 年　6 月　1 日

G7 ユースサミット分科会開催に当たり、分科会報告書を A4 で 1～2 枚程度お願いしております。基本的なフォーマットは以下の様式ですが、基本的に自由形式としております。〆切は今週の 28 日（土）です。

分科会担当 団体種別 ※いずれかに✓	☑任意団体　　☐NPO 法人 ☐その他法人（　　）
フリガナ	ウェイク　アップ　ジャパン
団体名	Wake Up Japan
分科会担当名 *複数いる場合 全員記入	鈴木 洋一
E-mail	jpn.wakeup@gmail.com
担当時間	☐午前　　☑午後

２　分科会内における提言発表について

分科会概要	①　分科会のまとめ 冒頭で、Wake Up Japan の簡単な紹介も兼ねて、上記の問題意識を共有した。そのうえで、「どのようにすれば、より多くの人に社会問題に関心を持ち、活動に参加してもらえるか?」という問いのもと、さらに対象別に細かく分け、「まだ関心を持っていない人に関心を持ってもらうためにはどうすればよいか?」(個々人の参加拡大)という問いと「既に活動している個人や団体が社会に政策提言を行ったり、そのために協力をしていくためには何が必要か?」(連携推進)という問いに分かれて話し合いを行った。 ②　問題は何か 前者の個々人の参加拡大では、参加者一人ひとりが「なぜ今回の G7 ユースサミットに参加したのか」という質問を皮切りに、新たに活動に参加するときはどのようなときなのかを、これまでの歩んできた人生を顧みながら話し合いを行った。 そうした中で、友人に誘われたという関係性からの動機、人間関係の中で誰かを知らず知らずの間に傷つけてしまって、そうした心の経験があって、社会問題に

	関心を持っているということなど、具体的なエピソードをもとに参加者の方々が話をしてくれた。 感情が移入すること、共感をもつこと、など、人が関心を持つときのきっかけを抽出していった。 また、何か新しいことにチャレンジしたときに、それを歓迎する姿勢を育んでいくこと、英語のクラスで発音に対して過剰なまでに褒める語学のアシスタントのように褒めていくことの重要性や、逆に日本社会では反省会の名のもと、過剰なまでのネガティブなフィードバックが多く、成功しなければ行動してはいけないような風潮が生まれていることなどもまとめられた。 後者の「連携推進」では、組織間の連携の話の前提としての個人の行動にも焦点を当てた話し合いがなされていた。特に印象に残ったのは、情報を受け取る「インプット」をし、何かを発信する「アウトプット」その間に、自分の中に落とし込む時間の重要性だった。気軽に落とし込むためには、「飲み会」や「カフェ」的な気軽に思いを話せる場が重要であり、そうして関係をつくっていった中で、「巻き込む」のではなく、「持ち寄る」というイメージで人々が集うということだった。 そして、「私民」が「市民」になっていくことの必要性も説かれた。自分の楽しみや自分中心の世界に生きる「私民」から他者との関係や地球とのつながりのなかで自分を位置づける「市民」になっていく過程が重要で、これも、対話によって作れるのではないかという話だった。 ③ その問題をどう解決するかの ④ ①と②を踏まえたうえで、どう G7 や日本政府に提言していくか 本分科会では、自らのアクション・プランと社会のアクターに対する要望を以下のようにまとめた。 <アクション・プラン> (自分は) ・人が安心して対話できる空間をつくります。 ・関心のない人に、共感を大切にして働きかけます。 ・行政と民間の懸け橋になる。 ・(大学で)感情と理性との使い分けを伝える。(自分の心の声に耳を傾ける。自分を客観視する。) ・言い訳せずに自分ができることをする。 ・かわいい、かっこいい、あこがれるような社会起業家を育てる(自分もちょっとがんばればできるかもというロールモデル) ・自分がもっと他人に関心、興味をもつ、愛する。 ・多様な参加の形をつくる。音楽や芸術を通じて。 (社会の中で) ・教育機関はシティズンシップ教育を推進してほしい。 ・教育機関は多様性の重要さを広めてほしい。 ・メディアでかっこいい社会起業家(ビジネスだけはなく、社会活動家)を取り上げてほしい。 ・芸能人に社会問題に対する発信をしてほしい。

「G7 ユースサミット（略称：G7YS）」の開催に関する
分科会報告書

記入日　2016 年　5 月　28 日

G7 ユースサミット分科会開催に当たり、分科会報告書を A4 で 1～2 枚程度お願いしております。基本的なフォーマットは以下の様式ですが、基本的に自由形式としております。〆切は今週の 28 日（土）です。

分科会担当 団体種別 ※いずれかに✓	☑任意団体　☑NPO 法人 □その他法人（　　）
フリガナ	ピースボート、ニッチョウガクセイコウリュウ
団体名	ピースボート、日朝学生交流
分科会担当名 *複数いる場合 全員記入	寺地　亜美、竹田　響
E-mail	Hibiki.kekeo@gmail,.com
担当時間	□午前　☑午後

２　分科会内における提言発表について

分科会概要	①　分科会のまとめ 「平和」分科会には約 20 名が参加し、議論を行った。 平和を規定する国際的な枠組みについて竹田から 10 分程度説明をした後、事例紹介としてピースボートと日朝学生交流の紹介を 15 分ずつ行った。その後ワークショップへと移り、「自分の身近な問題から考える『平和』」として、自分の身近にある「平和でないこと」を参加者にブレストしてもらった。その後「社会の平和のために必要なこと」として先述の議論をもとに「社会の平和を実現するための要素」をグループごとに議論してもらった。その内容を全体で共有した後に、政策提言文の策定を行った。 ②　問題は何か 国家間の枠組みにおいては、平和は特に国家安全保障という枠組みで語られることが多い。しかし、国家安全保障とその地に住む人びとの真の平和は必ずしも一致しないことが多い。例えば日本と北朝鮮の事例を挙げた場合、双方の地に暮らす人々にとっての平和は双方の国民が互いを認識しながら共に暮らしていく、

	という点になるが、日本側から見た国家安全保障の観点においては、北朝鮮を「脅威」の存在とすることによって、アメリカや周辺各国との利害関係を保っているという側面がある。今回の G7 においては安全保障の枠組みにおいて「テロ対策、中東情勢、ウクライナ情勢や北朝鮮情勢等」を議論するという表現が用いられたが、国家安全保障は必ずしも紛争を解決することにはならず、時に紛争を助長することとなる。 ③ その問題をどう解決するか そこで、国家安全保障という観点だけではなく、一人の地球市民として、どのように平和な社会を実現していくのか、という視点で「平和」について一人ひとりが考えることが重要であるという結論に至った。特に、自分と違う価値観や文化を持っている人々を、違いを認識した上で共に生きていこうとする姿勢が大切である、という結論に至った。 ④ ①と②を踏まえたうえで、どう G7 や日本政府に提言していくか 以上を踏まえ、当分科会では以下のような提言を策定した。 平和 1945 年に採択されたユネスコ憲章では、前文において、「政府の政治的および経済的取極のみに基く」平和は「世界の諸人民の、一致した、しかも永続」させることはできないと規定した上で、平和が失われないためには「人類の知的および精神的連帯の上」で平和が築かれ、「思想と知識が自由に交換されるべきことを信じて、その国民の間における伝達の方法を発展させ及び増加させること並びに相互に理解し及び相互の生活を一層真実に一層完全に知るためにこの伝達の方法を用いる」ことが必要である、と提起されている。 人々が身体的、精神的に傷つかない社会を実現するためには、価値観の違う他者を認める土壌が必要であると同時に、政治的に膠着状態である時こそ、政治レベルと市民レベルの両者が対話を強化していくことが必要である。 PEACE In the Constitution of UNESCO`s preamble, adopted in 1945, it was regulated that peace “based exclusively upon the political and economic arrangements of governments” could not “secure the unanimous, lasting and sincere support of the peoples of the world”, and if peace is not to fail, it was regulated that peace must be founded “upon the intellectual and solidarity of mankind” and “believing in the free exchange of ideas and knowledge”, “to develop and to increase the means of communication between their peoples and to employ these means for the purposes of mutual understanding and a truer and more perfect knowledge of each other’s lives”. It is needed that a soil of recognizing others who have different values, to realize a society which people do not harm physically and mentally, and also it is when the situation is politically deadlocked that both side of political level and civil level have to strengthen a doing dialogue. 以上を踏まえ、G7 各国に対し、以下の実施を求める。

	ー相互理解を実現するためには思想と知識が自由に交換されることが必要であり、人間の国境を超えた自由な行き来が重要である。各国政府は国交の有無を問わず、二国間ないしは多国間における、特に次世代を担う若者の間の交流・対話の場の構築を行う。 ー平和は人類の知的および精神的連帯の上に築かれなければならず、すべての人に充分で平等な教育の機会が与えられることによって、平和への土台が築かれる。学校教育において、自国の立場だけでなく、相手国から見た自国や周辺地域についても生徒・学生に伝え、物事の多面性を理解させる。 —市民同士の対話はもちろん、政府と市民、特に少数派や社会的弱者の声を反映させる手段及び場所を確保する。 Based on the above, we youth request to implement the following, to a member of G7 countries. - to realize a mutual understanding, it is needed to be done a free exchange of ideas and knowledge, and it is important to do a cross-border moving of mankind. Each government builds place of exchange/dialogue between bilateral or multilateral countries, especially by youth members who responsible for the next generation, regardless of a presence or absence of diplomatic relations. - Peace must be founded upon the intellectual and moral solidarity of mankind and foundation of peace is built by full and equal opportunities for education for all. In school education, not only teaching students a position of their home countries but teaching perspective of home countries from other countries and the surrounding area, and to be understood multifaceted nature of things - not to mention to make a dialogue of citizens, to secure a means and places which is reflected a government and citizen, especially a voice of minorities and Vulnerable Groups in Society.

Policy Brief for G7
Japan Youth Platform for Sustainability

Japan Youth Platform for Sustainability (JYPS) is a platform for young people and organisations based in Japan to engage in the UN and other intergovernmental systems. The process of developing this position paper was open, inclusive, and grounded on democracy. JYPS hosted the G7 Youth Summit on 22nd May 2016 supported by the Japan Civil Society Platform on 2016 G7 Ise-Shima Summit, GCAP Japan, and Mie University. The adopted 2016 G7 youth summit declaration has two pillars: G7 Analysis for reviewing the past eight years of Communique, and Working Reports in regard to youth and 10 thematic issues and priorities on G7 and meetings.

I. G7 Analysis

We would like to emphasise that the way G7 addresses youth falls short in effectively doing so by missing the meaningful engagement of young people at all stages of policy processes from designing, implementation, monitoring, and reviewing. We call on G7 countries to adopt the Major Groups as the institutionalised mechanism for stakeholders to partake in G7 summits.

II. Thematic Issues

Child Health Care

- All policies related to children should set full realisation of the Convention on the Rights of Children (CRC) as a goal.
- Within the health related aid, Child Health Care should be prioritised within Universal Health Coverage. It is essential to provide quantitative and qualitative aids for strong nursery institutions protecting the rights of children. Such provisions can be a part of promoting quality infrastructure.
- The aid for Child Health Care should set higher standard than WHO requirements.

Environment, Climate Change and Biodiversity

- G7 countries should commit to promote energy efficiency, phasing out fossil fuels and nuclear power, and achieve the 100% renewable energy society as soon as possible (or by 2050).
- Introduce Ecological Tax Reform, pricing the social and environmental negative externalities, to discourage the economic activities which impede sustainability. This will create new liquidity for financing and enable the environment to actually reach SDGs and Paris Agreement.
- Address the safety in the process of Reactor decommissioning, which has been neglected.
- The importance of technology to promulgate renewable energies is missing in the outcome of the G7 Energy meeting in Kitakyushu. This should be mentioned.

Partnership (PPP, Multi-stakeholder mechanism)

- Institutionalise the multi-stakeholder participation at all level and stages of the policy forming process. We recommend using the Major Groups system.
- Public Private Partnership should be held accountable and transparent. All partnerships should be scrutinised to measure its social, environmental, and economic impacts and community based implications. It should not be a technique to offset the debt from the balance sheet, which will cause the exceeding investment neglecting the actual economic environment.

Education for Sustainable Development

- In acknowledgement that education plays an indispensable role in the pursuance and creation of a sustainable and peaceful society, it is recommended that all G7 countries advocate and mainstream Education for Sustainable Development (ESD) at all levels.
- The process of Implementation, Monitoring, and Follow-up and Review should respect the autonomy of each institution. This requires the reform of evaluation systems of teachers and schools.
- It is necessary to build the ESD platform in a way that learners from all sectors and backgrounds can engage in opportunities to study.

Food Security and Hunger

- Address zero hunger in long-term planning, including the countermeasure against a temporal famine as those challenges are usually caused by the structural issues.
- Promote food security and a sustainable and responsible supply chain by strongly committing to actions against malnutrition through Nutrition for Growth and governance of tenure for land, fisheries, and forests.

Syrian Crisis

- Protect the asylum seekers from Syria and to expand eligibility to apply for Refugee resettlements.
- The cost to foster Syrian and other refugees should not be part of ODA,.

Youth Participation

- G7 should host a "G7 youth and children summit" as an official part of the summit, and its outcome shall be fed in outcome of G7 summit. It is critical to ensure the administrative and budgetary support for G7 children and youth summit.
- Promote the youth engagement in decision-making process, For example, local youth parliament can be one of ideas. Such initiatives are actually implemented in European countries. To enable marginalised groups participation, it is indispensable to allocate finances to those initiatives.

Peace

- It is essential to ensure the freedom of movement of people, knowledges, and ideas, especially among young people. This should be further promoted by expanding exchange programmes publically financed.
- In reconciliation process, there must be safe, inclusive spaces for marginalised people to actually voice their needs and priorities. Such initiatives should be institutionalised and not based on a good-will.

Regional Inequality

- Ensure the regional sustainability in objectives of development aid which ultimately aims to enable local ecological areas can sustain without excessive dependency on and influence of

international trade. This can be operationalised through the “locally produced and consumed”, ethical products, fair trade, and among others.

- Reduce inequalities among and within cities and between urban and rural areas to achieve the social cohesion and equitable society. It is necessary to transfer fiscal, financial, and administrative capacity to local authorities. This will change the paradigm of urban-rural dichotomy and enhance the Integrated Territorial Development..

Disaster Risk Reduction

- Reflecting the Sendai Framework, the G7 should also allocate adequate commitments to human-induced disasters in addition to natural ones, including pollution.
- Building Infrastructure should go through the assessment in terms of three dimensions of sustainable development. It should not undermine the local biodiversity.
- Enabling environment means that local authorities and young people can collaborate, ensuring the ownership of both activities. It is necessary to set the guidance for governments on how to create multi-stakeholder participation in its recovery.

G7 ユースサミット宣言文

ユースによるG7加盟国への政策提言

2016年5月25-26日にG7首脳会議が8年ぶりに日本で開催されるに伴い、Japan Youth Platform for Sustainabilityは開催国である日本に住む若者を中心にG7ユースサミットを開催した。今回のG7は私たちの世界を変革する持続可能な開発のためのアジェンダ2030（以下アジェンダ2030）、気候変動に関するパリ協定（以下パリ協定）、防災のための仙台枠組み(以下仙台枠組み)、開発資金のためのアディスアベバ行動計画（以下アディスアベバ行動計画）採択後初の開催にあたり、日本政府、G7加盟国政府の積極的なコミットメントが期待されている。2016年5月22日、三重大学で開催されたG7ユースサミットは、若者の声を集約し、調整し、訴える場であった。その方法は、民主的なコンセンサスに基づく、オープンな意見の集約による政策提言を機軸にしていた。

Japan Youth Platform for Sustainabilityは、どのような若者でも参加することが可能な説明責任と透明性が担保されたプラットフォームとして、若者が重要だと考え、取り組んでいるあらゆる課題を本提言に含めている。

G7および関係国への政策提言を行うにあたり、始めに2008年の洞爺湖におけるG7首脳会議以降、G7加盟国がどのように若者に関しての社会及び経済政策を首脳声明、またワーキングペーパーにおいて言及してきたか、「G7診断」を行った。

それらの時系列的背景を踏まえた、地球規模課題に対する若者の提言を本宣言文とする。

G7診断

このセクションでは、Group of 7 (G7と呼ばれるサミットの最終宣言文でもある首脳声明、並びに各国閣僚会談から提出される声明）を参照しながら、前回の2008年洞爺湖サミット以降、G7が若者に関する政策を織り込んできているかを概する。

若者に関する文言

2008年の洞爺湖から、2015年のドイツ・エルマウサミットの開催までを振り返る。始めに、G7が概して扱ってきた分野を部分的に紹介すると、エボラ出血熱 (2010年)、世界金融危機(2008~2015)、世界低金利 (2014年)、難民問題(2015年)、テロ対策 (2015年)、開発に関するODA援助 (2008年~2015年)である。

このように形式的には 1) 経済 2) 政治 3) 開発を主に扱ってはいるものの、同時に毎年の緊急課題や新たな課題にも言及する幅広いアジェンダ（議題）を取り扱っている。では、これらのアジェンダ

において、若者の言明、言説（レトリック）はどの程度、またどのように織り込まれているのだろうか。

- We renewed our commitment to support democratic reform around the world and to respond to the aspirations for freedom, including freedom of religion, and empowerment, particularly for women and youth. (2010)

- We call upon all stakeholders to combat the use of Internet for the trafficking of children and for their sexual exploitation. We will also work towards developing an environment in which children can safely use the Internet by improving children's Internet literacy including risk awareness, and encouraging adequate parental controls consistent with the freedom of expression. (2012)

- Global oil markets, energy and climate change, alliances for food security and nutrition, and financial accountability are the focuses for youth in 2012. (2012)

- We welcome the recently announced Global Nutrition for Growth Compact which commits to under-nutrition reduction targets for 2020. We also welcome the financial and policy commitments to accelerate progress towards ending under-nutrition for women and young children. (2013)

若者に関する文言または文脈を抜粋すると、G7では 1) 若者の雇用 2) エンパワーメントなどが議論されてきている。宣言文、ワーキングペーパー内において言及されているこれら若者に関する3つの要素は、実際の若者を取り巻く社会、環境、経済のコンテクストにおいてどう評価されるであろうか。以下、コミュニケに打ち出されている 1) 若者の雇用 2) エンパワーメントを評価してゆきたい。

G7加盟国によるマクロ経済政策における労働市場の改善が見られた。
しかし、若者の労働市場での脆弱、周縁化から救う政策はいまだに十分には実施されていない。

若者の雇用

2008年のリーマンショック、また2010年ヨーロッパでのソブリン危機に始まる金融危機以降、消費停滞、またビジネスサイクルによる在庫調整により、G7加盟国が軒並み総需要の減退に苦しむ中で、同じくして供給の減退の矛先に若者の失業があった。この若者の失業に関して、G7&G8は；

- Promoting growth and jobs is our top priority. We agreed to nurture the global recovery by supporting demand, securing our public finances and exploiting all sources of growth. The fight against unemployment, particularly long-term and youth unemployment, remains critical in our domestic and collective agendas. (2013)

- Urgent and specific measures are needed to create quality jobs, particularly for the young and the long-term unemployed. We are all committed to make the necessary reforms in our own economies to support stronger financial systems, healthy labour markets, jobs and growth, and bolster world trade. (2013)

G7加盟国は経済構造のファンダメンタルを構成するマクロ経済政策（金融政策、労働市場介入、

財政政策）の策定により2008年以降は雇用の促進を実現してきている。

しかしながら、若者の雇用を取り巻く社会経済的地位はいまだに他の年代別で観察した場合に、脆弱且つ周縁化されている。

- A global recovery agenda for balanced, inclusive, and sustainable growth is the top youth priority of 2009. (Toyako Summit, 2008)

- Supporting growth and jobs remains our top priority. The global economy has strengthened since we met at Lough Erne, downside risks remain which will need to be managed carefully. Advanced economies are recovering, but continued and sustained growth is needed to bring down unemployment, particularly among young people and the long-term unemployed. (2014)

若者の長期失業を抑えるため、更なる労働市場の改善を目指し、G7加盟国+新興国からなるG20では、2014年ブリスベン、2015年イスタンブールにて雇用ワーキンググループが行動計画を設けた。とりわけ行動計画のフォローアップに関しては、共通のテンプレートに基づく労働市場の採点を雇用ワーキンググループが採択した。しかし、量的な裁量だけでなく労働市場における質の評価も要求するようG7首脳がイニシアティブを持つことを求める。この採点において、当事者における問題解決をするために、様々なステークホルダーが評価、フォローアップ、監査可能なシステムの導入をG7がリードすることを期待する。

労働市場という一次元ではなく、日常生活を含む生業に関する項目を含むことも重要である。

一方で、このような単純な経済活動における若者の雇用だけではなく、生活と雇用を織り交ぜた生業（livelihood）に関する議論をG7加盟国とも宣言文には反映できていない。社会、経済、環境の三側面に配慮した、持続可能な経済発展を促す包摂的な政策策定が必須である。昨年のアジェンダ 2030においても、これらの三側面から包摂的な政策を推奨するとともに、私たちの世界を変革する持続可能な開発のためのアジェンダ2030が採択後、初のG7首脳会議の開催において、この三側面に基づく新たな労働・社会経済政策を打ち出していくことが期待される。

経済、社会への政策制度設計における若者の参画こそが持続可能な発展への道しるべである。

若者のエンパワーメントと制度設計への参画

地球規模での課題に向けて、G7は国家、地域共同体、国際機関との様々なパートナーシップにより課題解決を図ってきている。

- Environment and climate change are more pressing than ever; we wish for global leaders to share the UNFCCC vision and take greater action against climate change. Greater international cooperation, R&D, and commitments to clean energy are necessary. (2009)

- Support for development, based on mutual responsibility, and a strong partnership with developing countries, particularly in Africa, remains a cornerstone of our approach. Keep the promise of the UNDP International Assessment on meeting the Millennium Development Goals (MDGs). Peace, stability, and democracy in Afghanistan, Pakinstan, Palestine, Israel, Myanmar, The Kyrgyz Republic, and Sudan is called for. (2010)

- Through the New Alliance for Food Security and Nutrition, G7 members welcome the support of the World Bank, African Development Bank, UNWFP, IIAD, and other international organizations. (2012)

- We reconfirm our strong commitment to the people of the Middle East and Northern Africa (MENA). Given the current challenges in the region, we renew our commitment to the Deauville Partnership with Arab countries in transition. (2015)

これらの環境、雇用、食糧に関する多様なアクターを含んだパートナーシップを歓迎する一方で、市民社会、企業、また社会の特定の利益、プライオリティーの代表をもって構成されるステークホルダーの参画がG7の政策策定において取り入れられてきていない。

メジャーグループ、ステークホルダー参画

1992年の地球サミット以降、世界規模課題から自治体での課題解決にまで、いたるところで「メジャーグループ」という参画システムが採用されてきている。また「ステークホルダー参画」と呼ばれる意思決定メカニズムが主流化しつつある。これを簡単に理論枠組みでの定義をすると、特定の集団を代表する個人・もしくは団体が実際の政策立案に参画するというものである。

今年の伊勢志摩サミットは、国連で採択された持続可能な発展目標（SDGs）の採択後、初のG7サミットである。このSDGsを含むアジェンダ2030は、以下のようにNGOs、女性、企業、そして若者と子どもを含むステークホルダーの参画こそが持続可能な開発の達成のために重要、と明記している。

日本は2016年のG7議長国として，説明責任作業部会の説明責任と透明性を維持することを目的として、市民のG7対話の機会を慣例に倣って設けていることを歓迎するが、策定における参画メカニズムへのマルチステークホルダー参画の仕組みはとられてないため、その点は改善されるべきである。本当の意味で、実質的なステークホルダーの参画を確実にし、幅広い意見を取り入れ、ドナー側の理論ではなく、人々の必要をベースとした政策決定を可能にするためには、多くの持続可能な開発にかかわる政府間交渉で使用されているメジャーグループを、G7のプロセスにおいても採用すべきである。メジャーグループは、各ステークホルダーの自律的なコーディネーションを根幹理念とした、自治的な制度であり、国連での実績を踏まえれば、最も望ましいステークホルダー参画制度である。

課題別提言

以上の過去8年間の分析、また今年日本が議長国として開催するG7サミットにて取り扱われる議題、またSDGsの採択後、パリ協定、仙台枠組み、アディスアベバ行動計画の採択後初となるG7首脳会議の開催、また喫緊の地球規模課題を踏まえたうえで、G7および日本政府に対し提言する。

子どもと医療

アジア発展途上国の農村部から子どもを受け入れる施設が多く存在する。その理由は、農村部で蔓延するHIVによって親を亡くし、人身売買の対象にされたり、売春に従事させられ、命の危険にさらされる子どもが多いためである。また、農村部の子どもたちは貧困によって教育が受けられず、低賃金労働に従事するという貧困のループから抜け出せないためである。加えて、深刻化する気候災害は、より弱い立場に置かれている子どもたちの生活や医療へのアクセスをさらに困難にしている。

貧しい子どもたちを上述のような状態から守る養護施設は存在するが、一時的であり、経済的、社会的に安定できるほどの支援を実施する施設は少ない。

養護施設を出てからも、人身売買や売春、低賃金労働に従事するしかないなど、結果的に経済的、社会的に不安定であるために、貧困から脱出できないことが多くある。

そのため、G7は

1. 各政府が、子どものための養護施設等の質的且つ量的整備状況や実質的な課題の把握に努められるような国レベルの統計委員会及び該当官庁への資金的援助及び技術支援を拡充すること、そのためのタイムフレームをSDGsのターゲットに沿う形で設定すること。
2. すべての子どもたちが将来にわたって安全で実りのある生活を送れるよう、養護施設等が備えなければならない条件をWHOが求める様々な基準を超える形で設定をすること。
3. 質の高いインフラの整備の一環として、そのような質の高い養護施設の整備を急ぐこと。
4. 1~3を通して、「子どもの権利条約」の完全なる達成をゴールに据えること。

環境、気候変動、生物多様性

2008年の国連責任投資原則の報告によれば、環境の負の外部性によって生じた、社会が払っているコストは6.6TrillionUSD（7000兆円以上）、もしくはその年の世界のGDPの11%であった。このような外部性は持続可能な開発を損なわせ、経済の基礎である天然資源を浸食する。そのようなコストに対し税をかけることを通じて強く抑制をすれば、現在我々が面している、開発のための資金不足は解消され、取り組まなければならない問題は減少する。そしてそのように使われる資産は、税金ないし人々の預金であることを踏まえると、政府、公的および民間金融機関、その他民間セクターは、説明責任とともに、我々に対する道義上の責任を負っている。

環境的に持続可能でない資産が早い段階で帳消し、下方へ再評価、もしくは賠償責任へと転換されるようなものを、座礁資産という。このようなリスクはめったに企業の評価や、企業経済の健全さを図ることに考慮されておらず、当然企業のバランスシートには計上されていない。このことは、金融および経済の仕組み全般において、環境的に持続可能でない資産へのアクセスを容易にしてしまっている。この代表例は、化石燃料である。

気候変動はすでに起きており、将来世代により大きな責任と被害が発生するという意味において、ユースにとっても非常に重要な問題である。2015年、国連気候変動枠組条約（UNFCCC）の第21回締約国会議（COP21）において「工業化前からの地球平均気温上昇を1.5～2℃未満に抑える」との長期目標が合意された。決められた目標値内に気温上昇を抑えるためには、現存する大部分の化石燃料はもはや燃やすことができない。UNFCCCの文脈では、各国の排出削減目標を足し合わせても2℃目標を守るために必要な排出削減量には足りず、早期に排出削減目標・行動を強化する必要がある。特に、歴史的に大量の化石燃料を燃やして莫大な温室効果ガスを排出してきたG7諸国の責任は大きく、脱化石燃料と再生可能エネルギーへの転換を率先して進める必要がある。特に、CO2排出の多い石炭からの脱却はただちに進めなければならない。

また、G7エネルギー大臣会合での共同声明における原子力発電に関する言及については、安全性のみであり、核廃棄物の処理や、原発依存を低減するという方針が打ち出されていない。

そして、気候変動と双子の環境問題と言われる「生物多様性」においても、国際社会はこれまでの「2倍の努力」が求められている。2010年に名古屋で開催された生物多様性条約第10回締約国会議で採択された、2020年までの行動計画である愛知目標の折り返し地点を過ぎ、生物多様性条約事務局がまとめた中間年における進捗状況評価では、「Good but not enough（進展はあるもの、目標達成には不十分）」とされた。

以上を踏まえ、G7は、

- 公的及び民間金融機関及び企業が、自らの投資行動を、経済のみならず、環境的及び社会的影響の面からも評価した上で、環境に負の影響を与えない持続可能な投融資方針を掲げるように、政策的環境を構築するべきである。
- 持続可能な投融資方針に沿わない投資内容に対しては、ダイベストメント等の施策を早急に行うべきである。
- 企業、金融機関、その他私企業が、例えば座礁資産を保有または対象として投資しないよう、そのようなパフォーマンスの評価及び株、債券の評価において、環境に対する負の外部性の評価を統合し、持続可能でない経済活動を強く抑制しなければならない。
- G7各国は、2050年までに温室効果ガス排出量を2010年比で少なくとも100%削減することを宣言すべきである。
- G7各国は世界をリードして対策を行う立場として、1.5～2℃目標に向けて長期の脱炭素戦略を2020年よりも十分早くに提出することを宣言すべきである。
- 現行の各国の目標水準では1.5～2℃目標の達成が不可能である現実を再認識し、2020年、あるいは2030年まで自国の排出削減目標を引き上げるべく早期に検討を開始することを約束すべきである。
- より一層の生物多様性の主流化を軸に、2020年時点での愛知目標の達成に向けたリーダーシップと具体的なコミットメントを宣言すべきである。

エネルギー政策

G7は、エネルギー効率化を進め、化石燃料や原子力から脱却し、再生可能エネルギー100%の社会を可能な限り早期（あるいは2050年まで）に実現することへコミットすべきであることを大前提とした上で、

1. 原子力発電：G7首脳会議での共同声明において、以下の4点を宣言することを求める。第一に、廃炉時の安全性強化を打ち出すことである。2016年のG7エネルギー大臣会合共同声明（以下北九州イニシアティブ）においては原子力安全が挙げられたが、廃炉時の安全性にも明確に言及すべきである。第二に、核廃棄物処理のリスクを認識することである。第三に、原発輸出は行わないことである。受入国にとって、災害リスクだけでなく使用済み核燃料の管理・保管における何万年にも及ぶ放射能リスクを負わせることになるためである。第四に、稼働年数は40年以下を厳守し、G7各国内での原発増設を行わないことである。これは原子力発電の将来ゼロを達成するための方策となる。特に、原発はその廃棄処分の費用が将来世代に多大にかかることを明確に認識するとともに、世代間の公平性の観点からも廃止とすべきである。
2. 火力発電：将来のGHG排出制限量を踏まえて、キャップ・アンド・トレード型排出権取引や炭素税といった炭素価格付け政策をG7として推進すべきである。また、世界平均気温の上昇を1.5～2℃未満にするためには、世界の化石燃料の確認埋蔵量のうち、最大約20%しか使用できないという点を踏まえ、特にCO_2排出量の多い石炭火力発電の増設を中止していくべきである。
3. 再生可能エネルギー：野心的な再生可能エネルギー導入目標を掲げるべきである。北九州イニシアティブの「世界の成長を支えるエネルギー投資」における、エネルギー効率の向上への

投資とクリーンエネルギー技術の普及（第七項）を歓迎する。また、「革新的技術を支援するための投資が重要である」ことに賛同する。ただし、革新的技術の開発だけでなく、現状で可能な対策を最大限進めていくべきである。具体的には、再生可能エネルギーの導入拡大のための優先接続や系統連系強化が挙げられる。

パートナーシップ（官民連携・マルチステークホルダーパートナーシップ）

サプライチェーンの拡大や情報通信技術（ICT）発展の負の側面として、社会問題がより広域化かつ複雑化していくにつれ、個別セクターのみによる課題解決には限界があり、あらゆるレベルでパートナーシップ型の課題解決が求められている。そのような社会の変化を踏まえてSDGsの中では、キーエッセンス（5p）の中の一つに【パートナーシップ】が掲げられ、具体的には17.16、17.17において目標が定められている。

マルチステークホルダープロセスを具体的に設計する上で、未来世代の声を代弁する若者の参画が重要な柱の一つである。すでにDESD（持続可能な開発のための教育の10年）の次の枠組みとして採択されたGAP（グローバルアクションプログラム）の5つある優先行動分野の一つとして、ユース（ESDへの若者の参加の支援）が含まれるなど、個別分野の中では参画の仕組みが必要視されつつある。より包括的な若者の参加・連携・協働の枠組みが重要である。

とくに日本の文脈においては、参議院政府開発援助等に関する特別委員会において、「G7伊勢志摩サミット、第六回アフリカ開発会議 （TICAD VI)および『我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ』に向けた我が国の開発政策に関する決議」が本決議について採択され、内閣総理大臣を本部長とし、全閣僚を構成員とする「持続可能な開発目標（SDGs）推進本部」が設置された。このような仕組みはすでにG7各国で整備が進んでおり、この流れをしっかりと若者としても支えなければならない。

以上を踏まえ、G7は、

- あらゆる政策決定のプロセスにおいて、実質的な参画を確保するマルチステークホルダープロセスをデフォルトで設計すべきである。とりわけ将来世代の声を代弁する存在である若者の参画を確実にすべきである。
- 官民連携手法（PPP）は、様々なレポートでその見えていないコストの大きさが指摘され、万能な解決策ではないことが明らかであることを踏まえ、国連の場において、PPPを最も野心的なレベルで定義し、不必要に私企業の負担を公に転嫁しないようにするための、国際的な交渉を実施できるよう、そのような取り組みを支援する。
- G7のコミットメントにおいて、PPPが使用される場合には、その費用がバランスシートに載り、負債としてカウントされ、健全な説明責任と環境・社会的影響とコミュニティに対する影響が慎重に測定されるようにしなければならない。

また日本政府に対しては、

- 本決議を含め、SDGs推進本部、国会議員、ユースを含めたSDGs市民社会ネットワーク、民間企業、アカデミアを含むあらゆるステークホルダーによる「支えあい、学びあい」のグローバルパートナーシップのもと、実施方針の計画からの参画、実施方針の策定、フォローアップまでの本決議の13の項目を完全に実施することを求める。
- 本会議の実施が、目標達成の2030年まで、時の政権に関わらず、持続的に取り組まれることを望む。
- 推進本部の決議における参加様式と、その実質的な実現を第一に、アジェンダ2030の「誰ひとり取り残さない（No one is left behind）」のもと、実施方針の策定を行うことを要求する。

教育

G7各国は、教育が将来的に持続可能で平和な社会を作るために必要不可欠であることを踏まえ、「持続可能な開発のための教育」(ESD)がすべてのレベルにおいて普及することを目標とし、以下を実施すべきである。

<教育機関の課題解決に向けた政策的支援>

- 各教育機関が主体となり「望む未来」や「教育の本質」を模索し、内容や教育実施内容の評価制度を、定期的に更新し続けられるように制度を整備し、支援を行う。
- 教育機関が自ら行う教育が何のためであるのかを模索し、実践し続け、新たな取り組みに挑戦しやすい、政策環境を整備し、懲戒ベースの評価制度を改める。
- 教育機関が、自ら実施した評価、そしてそれを踏まえた改善を可及的速やかに実施することを推奨し、資金的行政的支援を充実させる。

＜若者の課題に向けた解決＞

- ESDや新たな形の教育に携わる若者が集い、相互の情報交換を通してエンパワーメントする場を定期的に持てるよう、主に地方自治体を提供主体とする資金的制度的支援の充実を図る。
- ユニセフなどが整備する若者から意見を徴収する仕組みを参考にしながら、オンライン・オフラインともに若者の声を汲み取る仕組みを作る。
- 若者が持続可能な未来のビジョンを描き、担い手になれるよう、様々なステークホルダーが能力育成の機会を提供する。
- ESDにかかわる感覚、体験を養うために研修の機会を日本政府が設ける。
- 職業・生業訓練などを含めたキャパシティビルディングを通じた雇用創出を促進する投資に、重点を置くよう要請する。

＜専門家の課題に向けた解決＞

- ステークホルダー間の分野横断的な交流を増やすため、地方自治体主体で、もしくは支援役として、制度的イニシアティブをとるよう推奨する。
- 専門家と市民が集い、互いに学び合う機会を増やす。

食糧・飢餓

今日、全世界において若者は人口の50%以上を占めている。若者は次世代を担う重要な役割を担っていると言えるが、飢餓によって死亡または生活困窮に陥る者も多く、将来の地域の発展へ健全に貢献できていない。国連世界人権宣言が定めるように、十分な食への権利(right to adequate food)は人権である。いうなれば、 飢餓が若者の可能性、人権を潰している。飢饉への緊急支援のような構造的ではあるが一時的に発生し、一過性の補填が機能することとは異なり、慢性的飢餓には栄養への投資及び教育・職業支援など長期的計画が必要である。特に各国の自立支援は支援受け入れ国との信頼関係や、情報収集、実施機関の整備、人員訓練などのインフラストラクチャーの構築に時間と費用がかかる。また、気候変動の進行に伴って異常気象が発生し、将来世代は今後ますます食料の生産および確保が困難になる可能性のある地域もある。

栄養不良は生涯にわたる身体的・精神的影響を及ぼし、人々の生活を実りあるものにするかどうかを左右する。また、持続可能な開発の妨げとなる栄養改善への1ドル投入ごとに16ドルのリターンがあると言われる。そのため、栄養に対する重点的な援助、資金分配は必要不可欠である。

そのため、G7は以下の項目に取り組むべきである。

- 一過性の飢饉への構造的対策・対応を含めた、長期的な途上国支援計画の作成をし、実施すること。
- 目に見える（tangible）物的支給支援だけでない、その他包括的な支援、特に教育、雇用と生業、環境問題の観点からの飢餓削減支援計画の作成、実施、モニタリングとフォローアップを行うこと。
- 今年2016年のリオで開催される、成長のための栄養 (Nutorition 4 Growth)において、栄養資金の規模を拡大することに関する具体的な資金表明をすること。
- エルマウサミットで約束された取組みに関する行動計画の作成と実行、また、第42回世界食糧安全保障委員会(CFS)にて採択された、責任のある農業投資（PRIA）をもとに、食料安全保障と農業・投資を一貫してモニタリングできる、透明性の高い共通の説明責任のフレームワーク制定、その制定に基づく投資の促進をすること。
- また栄養のある食料供給を保障するために、農業また、林業、漁業を営む人々の権利保障、また、国の食料安全保障における土地、漁業と森林の保有の権利に関する責任あるガバナンスについての任意自発的指針(VGGT)を推進することによる、農林水産業に従事する人々の主権を確実にすること。

シリアの紛争と難民問題

シリアでは2011年3月から5年間、現在も紛争が続いている。気候変動によって国内の農業が甚大な被害を受け、政情不安定になったとの研究者の指摘を認識する。長引く紛争の中、シリアの人々は安全を求め、近隣国や欧州に避難している。国外へ避難しているシリア人が急激に増加し、国際社会は支援が追いつかず、生活状況は悪化の一途をたどっている。

日本においては、約65名のシリア人が難民申請をしたが、6名しか難民認定されていない。それ以外の大多数の申請者については、いわゆる人道的配慮に基づく在留特別許可が付与されているが、難民に対して行っている日本語研修等の定住支援は受けられていない。加えて、家族を日本に呼び寄せることは困難であり、非常に耐え難い状況となっている。その他、ビジネスや留学で来日したものの、シリア紛争が原因で帰国できず、在留を延長し続けている人も存在する。

実際、日本においては過去に一万人規模で難民を受け入れた経験がある。ベトナム人を中心としたインドシナ難民受け入れのために、定住促進センターをつくり、日本語教育や職業紹介・職業訓練を実施した。そして難民条約批准前の「閣議了解」で受け入れを決めたインドシナ難民1万人以上を受け入れた。

以上を踏まえ、日本政府に対し、以下の実施を求める。

- 難民申請をしたシリア人に対し、国際的な水準に則った難民認定や、それに準する保護を行うこと。
- 現在の第三国定住事業の対象をシリア人に拡大すること。シリア再興の将来を担う若者に対し、奨学金プログラムに基づいた大学生および大学院生の受け入れを行うこと。

- 根本原因である紛争解決に向け、日本がリーダーシップをとること。

若者の政治参画

先進国一般に少子高齢化が進み、若者の政治的影響力は投票におけるウェイトが他世代に比べ相対的に減っていることから、低下する一方である。選挙における投票率が今後仮に飛躍的に上がったとしても、高齢者世代の票数に対して絶対数が圧倒的に少ない。そのような、投票の民主主義を補填するオルタナティブな仕組みとして、将来世代との世代間公平性を担保し、将来に対する説明責任を強化するためにも、若者の声を包摂的にすくい上げていくためには、直接に声を聴き、その意見を取りまとめ調整し、代表制および正統性ある意見が意思決定の過程に意思決定者として含まれる必要がある。

また、21世紀のグローバル化した時代の中では、性、文化、民族、門地、社会的背景等を踏まえた、より多様な価値観を前提とした社会の形成が求められている。若者が政治に参加する際にも、より多様なバックグラウンドをもつ若者が参加できる包摂的な枠組みが重要である。

特に、G7は、その政治、社会、経済、環境に対する影響の大きさから、国際的な枠組みにおいて、当事国の若者はもちろんのこと、それ以外のすべての若者が参画できるスペースを作り、当事国・影響を受ける国それぞれの若者の排除をなくすことは長年の「終わっていない仕事」(unfiinished business)である。

そのためすべてのG7は、世界の若者の参画をリードするためにも、

- G7サミットの際には、代表性と説明責任が担保された子ども・若者による「子ども・若者サミット」を開催し、提言内容を首脳声明に加えるよう真摯に検討するべきである。
- サミットの際には、当事国およびそれ以外の国の若者がかかわることができるよう、行政的資金的支援の枠組みを整備するべきである。

特に日本政府に対し

- 政府および地方自治体は国や地域の課題解決を議論し、解決策を提言する若者議会の開設を推進、支援する。若者議会の運営に必要な資源（事務所、会議場や最低限の経費）は、政府および地方自治体が負担をする。
- 若者議会での議論の過程に、政府または地方自治体は影響力を行使しない。政府の政策検討の場である審議会等において若い世代の委員の割合を増やす。

平和

1945年に採択されたユネスコ憲章では、前文において、「政府の政治的及び経済的取極のみに基く」平和は「世界の諸人民の、一致した、しかも永続」させることはできないと規定した上で、平和が失われないためには「人類の知的および精神的連帯の上」で平和が築かれ、「思想と知識が自由に交換されるべきことを信じて、その国民の間における伝達の方法を発展させ及び増加させること並びに相互に理解し、及び相互の生活を一層真実に、一層完全に知るためにこの伝達の方法を用いる」ことが必要である、と提起されている。

人々が身体的、精神的に傷つかない社会を実現するためには、価値観の違う他者を認める土壌が必要であると同時に、政治的に膠着状態である時こそ、政府レベルと市民レベルの両者が対話を強化していくことが必要である。

以上を踏まえ、G7各国に対し、以下の実施を求める。

- 相互理解を実現するためには思想と知識が自由に交換されることが必要であり、人間の国境を超えた自由な行き来が重要である。各国政府は国交の有無を問わず、二国間ないしは多国間における特に次世代を担う若者相互の交流・対話の場の構築を行う。

- 平和は人類の知的および精神的連帯の上に築かれなければならず、すべての人に充分で平等な教育の機会が与えられることによって、平和への土台が築かれる。学校教育において、自国の立場だけでなく、相手国から見た自国や周辺地域についても生徒・学生に伝え、物事の多面性を理解させる。
- 市民同士の対話はもちろん、政府と市民、特に少数派や社会的弱者の声を反映させる手段及び場所を確保する。

地域

地域内や南北間における格差が生まれるのは、一方が決めたルールをもう一方に押し付けているという構造に原因がある。都市部や「先進国」は「安さ」「贅沢」「効率」「経済性」を求めることで、農山村部や「開発途上国」の資源が搾取される。それに伴い、都市部や「先進国」側もこの構造により格差が進行し、都市内、都市間において、さらに都市部と農山村部間における格差は開く一方となっている。

これを解決するためには、過度な依存、収奪構造から脱却し、お互いバランスのとれた関係性の上で各地域が自立することが重要である。各地域にある資源を活用しながら、地域住民が主体となり、持続可能で自立した社会を構築することが何よりも求められている。

そのためには、流域を一つの単位として考え、流域内において持続可能な循環型社会を構築することが重要となる。川の流域には上流から下流にかけて様々な資源があり、それを循環させることで外部収奪に頼らない、また収奪されない穏やかな地域を作ることが可能となる。

この他にも、フェアファイナンス、フェアトレード、環境問題や社会問題を引き起こすことなく生産されたエシカル商品、また地域でとれたものを地域で消費するという地産地消など、課題解決に向けた取り組みが草の根的に広まっている。この状況は地域間格差是正の追い風になっている。

SDGsの目標10に「国内および国家間の格差を是正する（Reduce inequality within and among countries）」といった一文があるように、これは社会全体で取り組まなければならない問題である。貧困や飢餓の多くは、「開発途上国」に集中していたり、土着の文化からくる意識が原因の一つとなり、学校に通えない子どもがいたり、議会議員の女性の割合が低かったりと、「教育」「ジェンダー」などさまざまな事柄において地域間格差があることが報告されている。このような格差を是正することも地域自立のためには必要である。

そのため、G7は

- 国際間における行き過ぎた自由貿易によって生じている課題を主要議題と捉え、海外資本に影響されない国、地域づくりを地球規模で推進していくこと。
- そのために、地産地消をベースとした、自立した「地域主体」による地域圏を作ることで、地球上のすべての人が、出自のいかんに関わらず、他の誰かの犠牲になることなく、収奪構造によらない、穏やかに、真に豊かに暮らせるようにすること。
- 中央政府は、地方自治体に対し、水平的公平性を担保できる限度において、その財政的、金融的、行政上の権能を移転すること。
- 現在、世界において日本だけが該当する「超少子高齢社会」は、今後数十年間のうちに、先進国途上国を含め、多くの国が同様の社会構成になると予測されている。そのような社会構成において、今まで以上に地域コミュニティが果たすべき役割の重要性を認識させること。そのため若者に地域アイデンティティを抱かせ、地域コミュニティに参画してもらうために、教育の地域還元化を図ること。

- 地域コミュニティと連携し、そのコミュニティの中での若者の役割について対話を通して若者の役割、取り組むべき活動を官民、そして若者で発見していくためのハードを整備すること。

特に日本政府に対し

- 国外からの影響に左右されない地域に即した、地域主体による地域づくり活動を推進していくことが必要となる。地方創生のような地域活性化を目的とする地域主体による事業展開を推進していくためにも、国から現場の市町村まで、実施の意義や目的等が一貫して伝わること、また企画検討や実施に至る際に、現場で活動している団体や若者をステークホルダーに組み入れる体制を作ること。
- すでに喫緊の課題である、地域コミュニティ再生などに対し、利用希望者が多い空き家を活用し地域コミュニティの拠点作成を地域住民と行政が一体となって取り組むための制度を作り実施すること。

そして我々は、それらを実現するために次のことを宣言する。

- 我々は、地域課題への意識の低さ、行動の少なさを改善するために、ユースに危機感を感じてもらい、一方で楽しそうだと思わせ、効果が期待できる機会を設けることで、若者が若者を巻き込むこと。
- 様々な年齢・職業・国籍をもつ人と人とが、居心地の良い地域で暮らすために、互いに排除するのではなく、多様な価値観を共有し、持続的につながっていける居場所を作ること。
- 我々は世界発信がユースの取り組む課題であると考え、地域で見えない声を拾い上げ発信することがユースの取り組む役割であると認識する。具体的には地元に入り込むこと、10,000人に1人しか考えてないニーズや価値を見つけ出すこと、SNSやメディアで世界に発信すること。

防災

日本は豊かな自然環境に恵まれる一方で、あらゆる自然災害を経験してきた「災害大国」である。同時に、これまでの災害の経験を踏まえ、災害リスクの削減や災害対応等の防災・減災の知見やノウハウを保持する「防災先進国」でもある。これまでも1994年（横浜）、2005年（兵庫）、2015年（仙台）に、日本で国連防災世界会議が開催される等、国際的な防災・減災の議論を先導してきた。2015年の仙台での国連防災世界会議では、仙台枠組みが採択され、各国で実施に向けた取組が開始されている。防災、減災への取組は国のみならず、多様なステークホルダーにより実施されており、国連システムにおける防災分野の調整役を担う国連国際防災戦略事務局（UNISDR）の活動にも、日本の企業やユース団体が参画している。2005～2014年の間に発生した気候関連災害が、1985～1994年のほぼ倍になっており、1995年以降だけでも気候関連災害によって60万人以上が死亡したとするUNISDRの報告に留意する。このような災害は、子どもやユースなど社会的に弱い立場におかれる人々により深刻な影響を与える。

防災・減災は持続可能な社会の構築には必要不可欠な分野である。2015年9月の国連総会にて採択されたSDGsでは、目標11において仙台枠組みに沿った総合的な災害リスク管理の策定と実施が明示されただけでなく、その他の関連する9つの目標にも、防災・減災の目標達成のための要素が組み込まれている。

仙台枠組みにおいて規定されたように、災害には自然災害に加えて人間が引き起こす災害が含まれる。しかし、今日における地震などに特化した国際的な災害の議論では、常に人間が引き起こす災害、例えば、原発事故、化学薬品漏洩、火災等に関して、十分議論が及んでいない。

以上を踏まえて、G7は以下の事項に取り組むべきである。

- 人間が引き起こす人災を災害の一つであるという認識を2015年に採択された仙台枠組みにそって表明し、自然災害とは別に予算を充当させる。
- 減災に資するインフラストラクチャーの整備においては、その環境・社会・経済に対する影響を評価し、特に地域の生物多様性、生態的な強靭さを損なわないようにしなければならない。
- 防災、減災のプロセス（企画、実施、監視、評価）において、ステークホルダー、特に若者が参画するための枠組みを、ステークホルダーとの協議を通じて構築する。
- 子どもを通した社会全体の防災教育を行う。子どもが防災を学ぶことで大人やさらにはその家族の周りのコミュニティへの防災に関する関心を高める。
- 行政とユースの協働が行えるような環境を整える。地方のコミュニティに積極的に関わるユースと行政が防災に関する取り組みを行うことで若者をハブとして地域と行政のコミュニティの活性化を図る。その活性化により地域のコミュニティにおける自発的な防災・減災、行政としては地域防災などの政策を作成するだけでなく、その確実な実行を行うことが可能である。
- 行政からのユースへの資金面でのサポートを実施する。防災に主体的に活動するユースは活動力と柔軟な思考を持つが、資金面での活動の制限があり、活動が円滑に行えない。そこで行政からのサポートを受けることで、より主体的な防災のためのユース活動ないしは子ども・ユースを通した大人への訴えを行うことが可能である。
- 防災・減災分野において重要なステークホルダーである企業とユースの役割に着目し、特に災害リスクの低減における協働が促進できると考える。たとえば、企業とユースが地域の災害リスクの調査や教育啓蒙を協力・分担して実施するなど、それぞれのノウハウや知識、人的・物的リソースの特性を活用する協働の形があると思われる。災害リスク低減と強靭な社会の構築において、企業含むさまざまな社会の構成要素をつなげる横串としてユースを積極的に活用してほしい。

J.Y.P.S.
Japan Youth Platform for Sustainability

2016年5月23日

5月23日 市民の伊勢志摩サミット 報告書

1. まとめ

5月23、24日に地場さん三重にて「市民の伊勢志摩サミット」が開催されました。同サミットは「2016年G7サミット市民社会プラットフォーム」と 東海「市民サミット」ネットワークにより共同開催されました。今回 Japan Youth Platform for Sustainability (JYPS)も、2016年G7サミット市民社会プラットフォームの加盟団体として、

ユースの分科会を開催しました。分科会では、前日に行われた「G7ユースサミット」の宣言文の報告、「G7ユースサミット」の分科会主催団体の活動報告を行いました。参加者からはユースサミット宣言文へのコメント、ユースの代議制に関して、若者のアドボカシー（政策提言）の意義ににについての質問が飛び交い終始白熱した議論となりました。

2. 開催情報

1. 日時：2016年5月23日（月） 13：15～15：40
2. 場所：じばさん三重（三重県四日市市）
3. 参加者数: 30名
4. 登壇者
   a. 小池　宏隆 / United Nations Major Groups for Children and Youth
   b. 外池　英彬 / Japan youth Platform for Sustainability
5. 招待講演者
   a. 岩澤　宏樹　/ CYJ
   b. 寺地　亜美 / ピースボート
   c. 田中　耕平 / NPO法人泉京・垂井
   d. 上田　格 / Youth Beyond Disasters
6. 主催側一覧

・主催：Japan Youth Platform for Sustainability
・後援：2016年G7サミット市民社会プラットフォーム
　　東海「市民サミット」ネットワーク

3. イベント要旨および講演録

1） JYPSの紹介とメジャーグループの重要性

今回のG7ユースサミットの開催の経緯に、どう若者が政策に参画できるかという問いがあります。「若者のプライオリティーをどう政策に反映させていくか」、そのモデルの1つに2012年のリオ+20以降から潮流化しているメジャーグループシステムがあります。これは、広く誰でも意見が表明でき参画できる民主的、且つ包括的な方法によって、特定の集団を代表するといったシステムです。JYPSとしては、この民主的、包括的な方法をもって、国内外での政策過程に若者の代表として政策提言、政策交渉に携わってきました。

今回の伊勢志摩でのG7首脳サミット開催に際して、開催国である日本の若者を中心に、代議制に基づく政策提言とはというショーケースを見せるために、G7ユースサミットを開催しました。具体的には、G7ユースサミット宣言文のドラフト公開で意見の集約を行うことで、多くの若者の意見を反映した宣言文となりました。

2) G7ユースサミット分科会主催団体の報告

G7ユースサミットには、医療、ESD、平和、シリア問題、気候変動、防災をはじめとした13の分科会に対して、15団体の参加があった。G7ユースサミットの分科会においては、各分科会担当の団体にはG7と各団体の活動を絡め、また参加者と共にG7首脳各国に向けたG7ユースサミット宣言文の作成を行った。市民の伊勢志摩サミットでは、このG7ユースサミット成果物を紹介するとともに、特定の分野（地域、平和、防災、環境）における分科会での成果物を招待講演者によって、また宣言文全体の作成プロセス（過程）について紹介しました。

質問として、

- ガバナンスに関する文脈、文言が入っていない
- 若者の代議制はどの程度の人数で担保できたのか。
- 若者のプライオリティーとは、若者が政策提言をする意味とは。

といった鋭い質問がありました。

今回の目的に据えていた代議制に関して、市民社会のNGOでの代議制を含め非常に議論の余地のあるテーマであるが、JYPSの方針としては代議制の方法、いわば質の担保こそ重要だと考えると述べます。それは量的な意見の集約を軽視するのではなく、民主的、且つ包括的な方法の採用こそが最重要であるということです。

また若者のプライオリティーと、若者の政策提言の意義として、単純に「若者のための視点」だけでなく、「若者の視点」の重要性も強調します。しばしば若者の優先課題としてあげられる雇用問題、教育問題だけでなく、持続可能な社会の達成に向けて若者を含む全てのアクターの意見、視点こそが重要になってきます。

3. ワークショップ

分科会の最後に、JYPSのアドボカシー活動や参加者それぞれの活動経験を踏まえて、参加型のワークショップを行ってもらった。テーマは、「持続可能な社会を達成するために、各ステークホルダーはどのような役割を果たすべきか。」で話し合われた。参加者の中には、ジェンダー問題に取り組む方、自転車と重火器の交換で平和構築を行う団体で活動されている方、若者の教育に従事されている方など、様々なバックグランドをがあり、各アクターがどうパートナーシップを実現し、政策に参画をしていくかの議論がなされた。

伊勢志摩サミット IMC 市民社会プラットフォーム活動報告書

日時：2016 年 5 月 27 日(金) 8：00～21：30

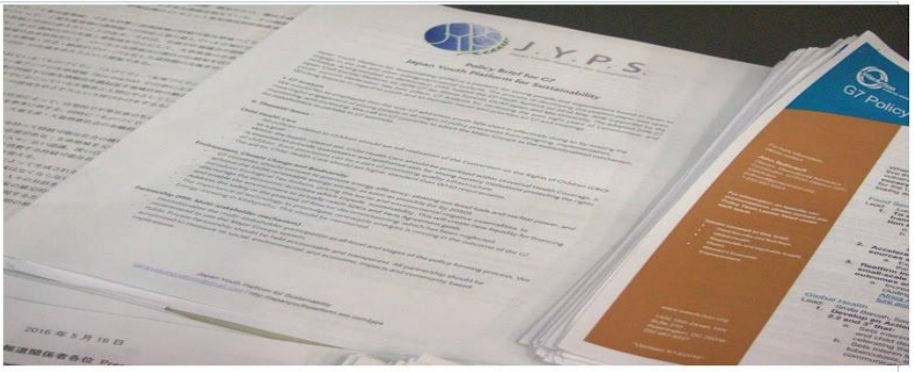
報告者：JYPS アンバサダー 上田格

【導入】

5/25（水）～27（金）にかけて、伊勢志摩サミットの国際メディアセンターが三重県営サンアリーナ（三重県伊勢市）に設置されました。三重県営サンアリーナに隣接する「伊勢フットボール・ヴィレッジ」のクラブハウス内に NGO ワーキング・スペースが設置され、NGO による記者会見やブリーフィングが行われました。G7 ユースサミットの開催、また市民サミット分科会の主催などを踏まえながら作成した G7 ユースサミット宣言文の作成、また G7 伊勢志摩宣言文に対する緊急レスポンスを記者会見を組み、メディアに対して行った。またその後の国内外の分野横断での市民社会による G7 宣言文の評価の記者会見において、ユースとしては 5 点満点中 3 点で評価した。

【内容】

時間	内容
8:00 ~ 9:30	朝食をとりつつ、IMC 本館内においてある各社の新聞をチェックし「伊勢志摩サミット」に対して各社がどのような意見をもってどのような話題に興味があるのか知る。
9:40 ~ 10:30	NGO 全体ミーティングに出席。一日の流れと諸注意の確認
10:30~12:30	IMC 本館内の NGO インフォメーションボードの前に立ち、合同記者会見等を説明する「コンシェルジュ」を行う。
12:30~13:30	**14:00 から始まる「ユース」の記者会見の資料を作成**



13:30~13:50	NGO 全体ミーティングに出席。11:00 ごろにコミュニケが出されたため、NGO 全体でその評価を検討した。
14:00~14:30	**「ユース」記者会見を実施。**

14:30~14:45	記者対応
14:45~15:00	**15:00 から始まる NGO 合同記者会見の設営**

15:00~15:45	NGO 合同記者会見を実施 記録係を行った。

【所感】

NGO ワーキング・スペースに行くのが 2 日目ということもあり、NGO の皆さんに仕事を振ってもらえること(もしくは仕事を見つけてできること)が増えたように感じられる。また、夕食の際にそれまで話していなかった方とも交流ができて人脈が広がったように感じられる。

2月26日 G7ユース勉強会@三重大学　報告書
Japan Youth Platform for Sustainability

1.　まとめ

Japan Youth Platform for Sustainability(JYPS)は、動く→動かすと三重大学生物資源学研究科国際交流委員会共催のもと、G7ユース勉強会を三重大学にて開催した。特に東海の若者にG7に対して関心を持ってもらうとともに、アドボカシーについて理解を深め、今後共に活動する人材を育成することを目的とした。勉強会は主に、①G7の歴史と市民のかかわり、②アドボカシーの意義と若者の参画、③グローバルイシューを自分ごとに、という三つを柱にしたものであり、スピーカー一名とパネリスト二名を外部から招待した。申込数よりも多くの若者、合計43名にも参加頂け、はっきりとは分からない中にもG7や国際問題に対する関心を持つ若者がいることを確認できた。三重大学においては、4月に改めて勉強会を開催し、さらなる若者のモビライゼーションに力を入れていきたい。

2.　開催情報

1. 日時: 2016年2月26日（金）13:00 ~ 15:00
2. 場所: 三重大学　生物資源学部棟
3. 参加者数: 43名
4. 招待講演者
    a. 稲場 雅紀 / 動く→動かす
    b. 吉松 隆夫 / 三重大学生物資源学研究科
    c. 岩城 ひろこ / 伊勢志摩まちづくり団体 楽笑 Raku-sho
5. 主催側一覧
    a. 小池 宏隆 / 代表理事
    b. 外池 英彬 / 政策統括
    c. 久保田 彩乃 / キャンペーン統括

3.　イベント要旨および講演録

1. セッション1「G7の歴史と意義 – NGOの役割」 稲場 雅紀

日本がG7内そして世界経済において非常に大きな影響力を有していることをわかりやすく紹介し、日本政府の決定や考えを変えることがどれほどの意味があるのかについて説明した。その上で、世界の市民社会がどのようなアクションをしたのかの例として、2000年のジュビリの問題と2005年の「Make Poverty History」を紹介。市民社会がどのように政策提言と対話を行っ

てきたか及び2008年の洞爺湖サミットにおける日本市民社会の活躍についても解説。

2. セッション2「G7と世界を変えるユースアドボカシー」小池 宏隆

国際協力の固定観念を変えるように、MDGsからSDGsに移行した社会情勢を説明し、そのSDGs策定過程において、ユースがどれほど参画し影響を与えたのかを解説。その後、アドボカシーの定義を踏まえ、なぜこのようにユースが自ら自分たちのスペースを作り上げ、モニターすることが重要なのかの理由として、政府や一部の団体が選んだ若者では本当の意味で多くの若者の意見を踏まえていないこと、それではアドボカシーにならないことを挙げた。そのために、自治するネットワークとしてのJYPSと企画しているG7ユースサミットについて紹介。

3. パネルトーク「ローカライズとアクション「世界事を自分事に」」

パネラー：岩城ひろこ（伊勢志摩まちづくり団体 楽笑Raku-Sho）／ 吉松隆夫教授（生物資源学研究科）／ 稲場雅紀（動く→動かす）／ ファシリテーター：小池宏隆（JYPS）

岩城氏：人と人をつないで、行政には対応されない問題を地域力で解決するための団体。七転び八起きにかけて、ガールズサミットとして7”転”のイベントをし、サミット後に”八起”として何かやりたい。地域には海女さんなどがあり、地域として豊かなことを再確認。G7に向けて、世界のことはわからないけど、地域のことはわかる。それをつないでいきたい。
吉松氏：フィジーなどで生物資源などを通じた地域創生のことに携わる。フィジーでも人の流出などが起き、これは三重にも通ずる話。今回のG7を通じて、地域創生における地域の資源の重要さなどの議論を持ち込みたい。今日のイベントには、海女さん関係に興味関心があり、参加している人も多い。みな具体的な話を探している。今日のイベントを通じて、多くの三重大生がG7に取り組むことを期待。JYPSが用意した舞台で活躍できると思う。三重県はお国柄として、静かというか受け身であるが、いいものを持っているのでぜひ声をあげてほしい。
稲場氏：アフリカでも、地域レベルでは日本の地方で起きていることと似たような問題も生じている。

Civil G7対話参加 @京都 報告書

Japan Youth Platform for Sustainability

1. 概要

Japan Youth Platform for Sustainability(JYPS)は、G7伊勢志摩サミットに向けた市民社会と政府との対話「Civil G7対話」に参加しました。2日間にわたるCivil G7対話において、NGOの議論のまとめ、その後G7シェルパである長嶺安政外務審議官及びG7各国シェルパとの対話セッションに参加しました。その際、G7諸国に対して以下の8つの項目に関する提言を行いました。

1）国際保健
2）食料安全保障および栄養
3）気候変動・災害リスク軽減
4）持続可能な開発目標（SDGs）の国内実施
5）シリア紛争問題
6）難民問題
7）ジェンダー平等、女性のエンパワーメント
8）衡平な税制および責任あるサプライチェーン

以下の記事に2016年G7サミット市民社会プラットフォームの参加団体である「シリア和平ネットワーク」の提言書や、市民社会プラットフォームについて掲載されています。

【毎日新聞　2016年3月23日　伊賀版】

http://mainichi.jp/articles/20160323/ddl/k24/040/264000c

2. ユースサミット紹介

また、対話の終盤にはJYPSが主催している、G7 ユースサミットの紹介をしました。

現在JYPSでは5/22に三重大学にてG7ユースサミット開催に向け、ユースサミットの参加者・分科会の公募を行っています。

下記のサイトから、奮ってご参加ください！

……

5/22 G7ユースサミット イベントページ
https://www.facebook.com/events/1726989400846010/
メーリングリスト

https://docs.google.com/…/1hKBFUjrFYSWZIEyo0WP6yBy…/viewform
……

G7 ユースサミットコンセプトノート
Japan Youth Platfrom for Sustainability

イントロダクション

G7首脳会合およびG7市民サミットに先立って行われる「G7ユースサミット(G7YS)」は、5月22日(日)に開催される、ユースのユースによるサミットです。サミットは日本の若者および参加する世界の若者に若者のプライオリティ、要求、そして僕らの取り組みを明確にし伝え、若者のG7や国際問題に関する会議における参画を強化するために行います。

G7ユースサミット	
企画名	G7ユースサミット / G7 Youth Summit
主催団体	Japan Youth Platfrom for Sustianability
後援（予定）	動く→動かす / G7サミット市民社会プラットフォーム / 三重大学
ウェブサイト	現在鋭意準備中
日時	2016年5月22日
場所	環境情報科学館
目的	1. 若者によるG7および今後世界的な枠組み作りにむけて取り組み促進 2. 若者の声をG7-政府間協議に伝える 3. 日本及び世界の若者同士と他のパートナーによる協働関係促進 4. 国内の若者の国際問題や地域問題に対する関心向上
方法	1. G7ユースフォーラムの開催 2. 国内・国外でのG7についての認識をあげる 3. 日本の若者間のネットワーク構築
実施対象	30歳以下の全ての若者（一般、現場、国際機関、NGOなどから）
期待できる成果	・若者におけるアドボカシーへの理解深化 ・日本における国際問題と地域問題をリンクした活動の促進

	・政府やその他関係者が若者の要望を理解しとパートナーシップを進める

この資料は、目的、背景、主催者、形式、そしてプラグラムについてまとめたものです。

目的

G7YS は以下の目的を達成することを目指します:

1. 若者のニーズとプライオリティを明確にする;
2. 若者が国際問題に対して政策の形成、実施、監視、フォローアップに取り組める力があるということを証明する;
3. 若者のアドボカシーにむけてのキャパシティービルディングを通じて、日本の若者の政策提言能力を一般に高める;
4. 若者を集め、様々な面で活動するNGOや団体とつなげることを通じて、若者と他のグループとの間のパートナーシップ形成を促進する。

バックグラウンド

G7サミットは、国際政治・経済をはじめ、途上国の開発や環境、地球規模の課題に向けた国際的な取り組みに大きな影響を与えています。そのため、世界の市民社会、NGO/NPOは、サミットに注目し、様々な働きかけを行ってきました。G7伊勢志摩サミットも例外ではありません。特に2016年は、「持続可能な開発目標」(SDGs、2030アジェンダ)や気候変動に関する「パリ協定」が採択されてから初めてのサミットであり、国内外の市民社会から大きな注目を浴びています。

Japan Youth Platform for Sustainability (JYPS)はG7ユースサミット(G7YS)を遂行し、様々な背景や経験をもつ若者と共同しながら、持続可能な開発を目指す若者が集い声を上げるスペースを作り上げます。彼らの現場での経験を活かし、彼らの持つ知識とネットワークを最大限生かし、G7を超えて若者が協同できるようします。

Japan Youth Platform for Sustainabiltiy

2015年国連で採択された**「私たちの世界を変革する～2030アジェンダ」**やその他国連や国際レベルで行われているさまざまな枠組みを作るためまたフォローアップするための議論に向けて、日本の若者の声を集約し、政策として日本政府や国連機関、そのほかの市民社会にその声を届けていくための「場」です。代表はなく、選出される幹事及び事務局のもとで若者の**「アドボカシー(政策提言)」**として、キャンペーン、イベント、記事掲載その他を通じて、さまざまなバックグラウンドをもつ若者の声を政策に実現していくためにあります。30歳以下の個人または、そのような個人で構成される団体、もしくは30歳以下の若者と働く団体であれば、だれでも参加することができます。

JPYSは団体ではなく、若者という社会の構成員(コンスティチュエンシー)に対して開かれたスペースです。そのスペースを自ら決めたルールと理事によって運営し、ピアアカウンタビィティの発想で公平性や透明性を担保しています。現在は、5月のG7に向けて6人の運営委員会体制で日々の事業を行っており、G7以降改めて制度の見直しと選挙を行う予定です。ウェブサイトはこちら。http://japanyouthplatform.wix.com/jyps

形式

サミットは全体会、分科会、パフォーマンス、ワークショップで構成されます。

全体会:

目的: G7の仕組みや、課題、そして若者が面する問題について共通の理解を提供する。開会と共通の課題についてのパネルディスカッションを最初に行い、閉会では、宣言、提言、自分たちの取り組み、そしてそのフォローアップを発表する。

分科会:

目的: G7やそれを取り巻く課題について若者がそれについて議論し、重要度や解決策について話し合う。加えて、それ以前にその課題に取り組んできた若者団体などの成果を共有し、それを議論の土台ともする。加えてこのセッションは、同じ課題に取り組む若者やNGO、NPOをつなぐ。

一貫するテーマ:

- 持続可能な開発に向けての課題;
- イノベーティブで効果的か解決方法;
- 衡平で貧困のない社会に向けての若者のアクション;
- G7に向けて若者のプライオリティ

テーマ:

- G7で扱われるテーマに合わせて実施するとともに、東海ユースが直面する課題を取り扱う.
- 一部はパフォーマンスにあてられる.

一貫する質問:

- 僕たちが望む持続可能な世界とは?
- どんなことが世界・地域をよりよくするために求められているのか?
- なにが、若者にとってのプライオリティなのか?

パフォーマンス:

目的: 課題などに政策的に解決策ベースで取り組むと同時に、一般的な関心を喚起しなければならない問題もある。(ex. 2000ジュビリーキャンペーン) そのため、パフォーマンスを通じてユースが考える問題に対してメディアキャンペーンの一環として行う。また、このようなパフォーマンスを通じて、どのようにして一般の市民にアウトリーチするかを学ぶ。

トレーニング:

目的: アドボカシーとは、その仕方を学び、具体的に戦略の立て方を学ぶ。そして、今後地域レベルや国レベルでのアドボカシーの戦略を立案する。

プログラム

部屋	時間	内容
	一日	展示
	10:00 – 10:20	開会および基調講演
	10:20 – 11:00	G7の歴史とアドボカシーの重要性
	11:00 – 11:10	調整時間

	11:10 – 12:00	G7および世界が面する国際的課題 三重県とG7 – グローバルとローカルの繋がり	
	12:00 – 13:00	昼食	宣言文 – コメントタイム
	13:00 – 16:45	分科会	
	15:45 – 15:05	–	
	15:05 – 16:50	分科会&パフォーマンス	
	16:50 – 17:00	調整時間	
	17:00 – 17:30	各分科会やパフォーマンスからの報告	
	17:30 – 18:00	閉会および宣言採択	

– 分科会の募り方

公募を通じて、テーマおよびリード団体を募る。テーマは、地域性、問題性、ジェンダーバランス、衡平性が保たれるようにする。また東海や三重の地域色が入るよう確実にする。

案（仮）

I	テーマ	リード
1	ヘルスと栄養	
2	格差	
3	東海テーマ	三重大学？
4	防災	

II	テーマ	リード
1	パフォーマンス	動く→動かす
2	アドボカシー・アドバンスド・トレーニング	JYPS
3	高校生とG7 – 教育を平等に	
4	環境と気候変動	

パートナーシップ

主催

Japan Youth Platform for Sustainability (http://japanyouthplatform.wix.com/jyps)

Contact: 小池宏隆（代表理事）

jypscoordinator@googlegroups.com

ホスト

三重大学
Contact: 吉松隆夫教授（三重大学生物資源学研究科）
takaoyos@bio.mie-u.ac.jp

このフォームを編集

G7ユースサミット分科会 参加団体登録フォーム

G7首脳会合およびG7市民サミットに先立って行われる「G7ユースサミット(G7YS)」は、5月22日(日)に開催される、ユースのユースによるサミットです。サミットは日本の若者および参加する世界の若者に若者のプライオリティ、要求、そして僕らの取り組みを明確にし伝え、若者のG7や国際問題に関する会議における参画を強化するために行います。

G7ユースサミット(G7YS)の企画書:
https://docs.google.com/document/d/1xlf0wOlWaMhGMP0q8XcRoG_Wf2IBehDvt-NfXQqm2bg/edit?usp=sharing

分科会:
目的: G7やそれを取り巻く課題について若者がそれについて議論し、どのように解決すべきかについて話し合います。主催団体などの経験を中心に、その課題に取り組んできた若者団体などの成果を共有し、それを議論の土台とすることで、グローバルな問題を自分事としてとらえられるような機会にもできるようにします。
加えてこのセッションを通じて、同じ課題に取り組む若者やNGO、NPOをつなぐことも目指します。ただ、形式やその中身については、各主催団体の裁量に委ねられております。運営委員会はその実施を最大限サポートします。

募集枠: 12 (プログラム数が12個あり、近しいテーマを選ばれた複数の団体があれば、共催をお願いすることもあります。)

会場: 三重大学環境情報科学館

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
G7ユースネットワーク(運営事務局 : Japan Youth Platform for Sustainability)
E-mail: g7youthsummitjapan@gmail.com
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

公募提出期限: 4/15日

*必須

担当者氏名 *

団体名 *

団体名(英語)

担当者連絡先(メールアドレス) *

担当者連絡先(電話) *

活動内容 *

HP *
HPがない場合、「なし」とご記入下さい。

Facebook *
Facebookアカウントがない場合、「なし」とご記入下さい。

分科会での発表概要 *

for

for

G7ユースサミット協力団体として、貴団体のロゴと活動紹介を掲載に同意できますか？ *

- [ ] 同意する
- [ ] 同意しない

質問・要望等をご記入下さい。

送信

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

Pow ered by Google Forms

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。

不正行為の報告 - 利用規約 - 追加規約

J.Y.P.S.
Japan Youth Platform for Sustainability

G7ユースサミットは5月22日、予定通り開催され、140名以上の方にご参加いただきました。
お忙しい中ご参加いただいた参加者の皆様、分科会主催団体の皆様に、心から御礼申し上げます。
採択された宣言文については、以下をご参照ください。

宣言文はこちら

WiX サイトを作ろう！

分科会主催団体一覧

午前

医療

「子どもたちに本当に必要な養護施設への支援」

NPOジャパンハート学生組織 HEART'S

ホームページ

HEART's（ハーツ）は特定非営利活動法人ジャパンハート直属の学生組織です。ジャパンハートは「医療の届かないところに、医療を届ける」ことを理念とし、主にミャンマー・カンボジア・ラオス、日本の僻地で医療を提供しています。

午前

開発

「G7を超えて、若者が継続してグローバルアジェンダに提言するために必要な国際開発」

Oxfam-Japan

ホームページ

オックスファムは世界90ヵ国以上で活動する貧困の克服を目指す国際的団体です。

午前

防災

「防災・減災におけるG7所属の若者の役割について」

Youth Beyond Disasters

ホームページ

若者という立場から積極的に政策提言を行うことで全世界に対して防災・減災の重要性を訴えています。

午前

シリア問題

「大学生からの提言：シリア危機に対する日本社会の役割」

P782 プロジェクト

ホームページ

P782プロジェクトは、全国782大学の学生とつながり、自分（たち）、自分の大学、自分の地域にできる〈難民〉との関わりを考え、行動を起こそうというプロジェクトです。

午前

環境と金融

「日本のエネルギー問題の仕組みと私たちのお金の流れ」

A SEED JAPAN

このホームページは WIX.com. を使って作成されました。あなたも無料で作りませんか >>

行動」を指す、日本の青年による国際環境NGO

午前

地域

「地域社会における若者の役割とその重要性」

名古屋わかもの会議

ホームページ

「愛知・名古屋をわかものから盛り上げる」をコンセプトに次の世代を担う若者が社会問題や自分たちの住む地域に関心を持ち、当事者意識の持てるキッカケ創りをしております。

NPO法人 泉京・垂井

ホームページ

垂井町に暮らす住民誰もが、垂井町のまちづくりに自ら参画し、行政、事業者・企業などと協働してまちづくりに関する事業を行い、『より幸福度の高いまち・垂井』を実現することを目指しています。

午後

食料・飢餓

「飢餓が若者を終わらせるのではなく、若者が飢餓を終わらせよう」

Youth Ending Hunger

ホームページ

日本が本部のNGOハンガー・フリー・ワールド（HFW）の青少年組織として飢餓や貧困の問題解決を活動目的とします。

午後

企業×若者
×SDGs

「防災・減災に対応したレジリエントで持続可能な社会構築に向けた企業とユースの役割とステークホルダー連携」

東京工業大学

coming soon...

午後

気候変動

「気候変動とエネルギーの問題」

Climate Youth Japan

このホームページは WIX.com を使って作成されました。あなたも無料で作りませんか >>

スによって設立されたネットワーク型NGOです。

午後

若者の政治参画

「若者世代の声を政策に反映させる「若者議会」の設立へ」

United Youth

ホームページ

若者の声を、もっと強く、社会へ。「ユースマニフェスト」で、若者の意見を発信する組織。

午後

パートナーシップ

「より多くの若者が社会参画をしていくために必要な環境づくり」

Wake UP Japan

ホームページ

「社会的な不条理を自己責任で片付けない」「人々が共に活動し、対話していくことで問題は解決できる」こうした行動原則を軸に活動をしています。

午後

平和

「平和を規定する国際的な枠組みと実現に向けた取り組み、私たちが平和のために身近にできること」

ピースボート

ホームページ

平和教育や紛争予防、軍縮、貧困対策などの分野で活動する国際NGOです。

午後

教育

「望む未来を創るための学び」

～一人ひとりが主体となり、考え、実践できる社会のしくみをつくる～

ESD Youth Japan

ホームページ

異なる立場から教育・啓発活動に携わるESDリーダーたちが、様々なESDテーマについて自由に語り合える、オンライン上のプラットフォームです。

いいね！ 57 Follow @JYPP2015 8 followers

© 2015 Japan Youth Platform for Post 2015

G7ユースサミットとは？

G7 ユースサミットは、ユースのユースによるサミットです。
サミットは日本と参加する世界の若者の要求や訴えや取り組みを広く伝え、若者の声を提言します。
災害、気候変動、平和や貧困などの地球規模の課題に対する若者の取り組みを示す絶好の機会です。
現在、ユースサミットの参加者を募集しています。

日時

5/22（日）
9:00〜18:00

場所

三重大学
環境・情報科学館

参加方法

ホームページへアクセス

▼

「G7YS 参加者登録」
をクリック / タップ

▼

登録フォームに
必要事項を記入

募集要項

G7 伊勢志摩サミットと「グローバルな課題」の解決に関心がある方
参加無料、定員 **200** 名（※定員に達し次第締め切り）
各分科会等の主催者も募集しています。
詳細はホームページ（右 QR コード）をご覧ください。

お問い合わせ

g7youthsummitjapan@gmail.com
（G7 ユースサミット運営委員会）

主催

J.Y.P.S.
Japan Youth Platform for Sustainability

後援

JAPAN CIVIL SOCIETY PLATFORM 2016 G7 ISE-SHIMA SUMMIT
2016 年 G7 サミット市民社会プラットフォーム

動く→動かす もう一歩、貧困のない世界へ
動く→動かす (GCAP Japan)

MIE UNIVERSITY
三重大学生物資源学研究科国際交流委員会

JIJI.COM

2016
6月14日（火）
東京都(東京)
27℃ / -℃
降水確率：20%

5月22日（日）G7ユースサミット開催のお知らせ

［動く→動かす］

5月26日、5月27日のG7伊勢志摩サミット開催に際して、日本全国のユースから成るJapan Youth Platform for Sustainabilityは、「G7ユースサミット」を開催することを決定致しました。

[画像: http://prtimes.jp/i/11082/19/resize/d11082-19-491391-0.jpg]

G7ユースサミットは、G7伊勢志摩サミットの議題やSDGs、若者の課題について、日本全国のユースとともに議論し、意見をまとめて、政策として日本政府や国連機関、市民社会にその声を届けていくための「場」です。
そして、来年以降のG7にも向けて、どういうテーマが扱われるべきか方向性を示します。

G7ユースサミットは、全体会、分科会、パフォーマンスで構成されています。

全体会では、G7伊勢志摩サミットの議題や若者の課題について、共通の理解を図るために、パネルディスカッションを行います。テーマは「G7の歴史とアドボカシーの重要性」と「G7および世界が面する国際的課題＆三重県とG7 - グローバルとローカルの繋がり」です。

分科会では、G7伊勢志摩サミットの議題や若者の課題について、12のテーマを設けます。この12のテーマに関連する活動を行っている分科会主催団体が主導になって、G7ユースサミット参加者とともに、若者と子どもに関する政策を議論、最終宣言文の作成をします。

パフォーマンスでは、地球規模の課題について関心を持ち始めたユースと一緒に、G7伊勢志摩サミットへ向けて、アクションを起こします。現在、G7 Youth Network内で企画を作成中で、近日公開する予定です。

G7伊勢志摩サミットに関心がある方、ユースの活動に関心のある方など、G7伊勢志摩サミットを通して、ユースの活動について議論、行動したい方は、是非「5/22 G7ユースサミット」へご参加下さい。

フォーカス

５０人死亡 米銃乱射
三愛水着 冠美女多数
サメ襲撃 男性死亡
AKB選挙 速報順位は
ＥＵＲＯ 美女サポ
リティ語る Ｊとドイツ
ミスアース 美女集結
カンヌ 国際映画祭
スペイン 白星発進
舛添都知事 辞職考慮
幸せな国 ブータン
モランボン 楽団の公演

アクセスランキング 経済 一覧へ
1 経産審議官に片瀬氏＝官房長は高橋エネ…
2 国交審議官に田端、毛利、花岡３氏＝技…
3 財務次官に佐藤氏＝国税庁長官は迫田氏…
4 総務省、不適切ツイート謝罪＝民間の「…
5 東京株１万６０００円割れ＝一時２５７…

動画特集 一覧へ

2016ミス・アース、日本ファイナリスト
スズキ会見、鈴木会長ＣＥＯ返上
空のＦ１、室屋初優勝
ベンツ、新型オープンモデル発表

◆G7ユースサミットFacebookページ
https://www.facebook.com/events/1726989400846010/

◆G7ユースサミット 公式ページ（参加者募集中！）
http://japanyouthplatform.wix.com/jyps#!g7youthsummit2016/m5umd

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝
G7ユースサミット詳細
【日時】5/22（日）
【時間】10:00～18:00
【場所】三重大学情報資源科学館
【対象】30歳前後までの全ての若者（一般、現場、国際機関、NGOなどから）、またユースや子どもに関して活動 している団体。
【主催組織】Japan Youth Platform for Sustainability
【協力団体】2016年G7サミット市民社会プラットフォーム／動く→動かす (GCAP Japan)／三重大学生物資源学研究科国際交流委員会
【お問い合わせ】
Japan Youth Platform for Sustainability(JYPS)
Email : g7youthsummitjapan@gmail.com
＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝ （2016/04/12-16:18）

データ提供 PR TIMES
本コーナーの内容に関するお問い合わせ、または掲載についてのお問い合わせは株式会社 PR TIMES （ release_jiji@prtimes.co.jp ）までご連絡ください。製品、サービスなどに関するお問い合わせは、それぞれの発表企業・団体にご連絡ください。

【PR TIMES記事一覧へ】 【アクセスランキング】

特集

バカラの帝王
大王製紙「お家騒動」

今、ここにある「バブル」
「アベノミクス」は？

為替相場の理と奔流
金融緩和見送りで円急騰

経営のプロはこう考える

イチロー新たな金字塔へ

「４強」が１位争いか

古都 フエ～越国の栄華～

【試乗】アルファ４Ｃスパイダー

PR TIMES

【JAF広島】高齢者の交通事故防止に向けて「シニアドライバーズスクール」を開催します! (16/06/14)

【ＪＡＦ神奈川】セーフティトレーニング神奈川会場（ＡＳＶ体験コース）を開催します (16/06/14)

シリア危機　イドリブの市場で子ども5人が殺害　シリア事務所代表声明【プレスリリース】 (16/06/14)

おすすめ

ＮＺホークスベイ
ワインの旅
極上赤に感動

「典型的ストーカー」
アイドル刺傷 専門家分析

オメガ新作に迫る
高級腕時計展

ふるさと納税関連ニュース

- 家電自粛に揺れる＝茨城県日立市
- 東京一極集中を是正へ＝企業版ふるさと納税
- １００キロウォークも＝福岡県行橋市、大分県別府市

にっぽんもぎたて便

駅前チャレンジショップが好調＝福岡県吉富町
美術館で「第九」大合唱＝徳島県鳴門市
地方発ホットニュース【自治体便り】

今日は何の日？

2008年
東京で地下鉄副都心線が開通

きょうの日本語検定　正しいのはどれ？

【適切な言い方は？】
この服は当店以外ではお買い求め（　）。[1級]

A. できません
B. になれません
C. にならられません

写真特集 特集トップ

PR TIMES 動く→動かすのプレスリリース(2016年4月12日)
プレスリリースを受信する 配信を依頼する ログ
Top テクノロジー モバイル アプリ エンタメ ビューティー ファッション ライフスタイル ビジネス
PR TIMESとは

5月22日（日）G7ユースサミット開催のお知らせ

動く→動かす

2016年4月12日 16時16分

22 いいね！ ツイート 0 google+ 0 はてな メール 画像DL

5月26日、5月27日のG7伊勢志摩サミット開催に際して、日本全国のユースから成るJapan Youth Platform for Sustainabilityは、「G7ユースサミット」を開催することを決定致しました。

G7ユースサミットは、G7伊勢志摩サミットの議題やSDGs、若者の課題について、日本全国のユースとともに議論し、意見をまとめて、政策として日本政府や国連機関、市民社会にその声を届けていくための「場」です。
そして、来年以降のG7にも向けて、どういうテーマが扱われるべきか方向性を示します。

G7ユースサミットは、全体会、分科会、パフォーマンスで構成されています。

全体会では、G7伊勢志摩サミットの議題や若者の課題について、共通の理解を図るために、パネルディスカッションを行います。テーマは「G7の歴史とアドボカシーの重要性」と「G7および世界が面する国際的課題＆三重県とG7 - グローバルとローカルの繋がり」です。

分科会では、G7伊勢志摩サミットの議題や若者の課題について、12のテーマを設けます。この12のテーマに関連する活動を行っている分科会主催団体が主導になって、G7ユースサミット参加者とともに、若者と子どもに関する政策を議論、最終宣言文の作成をします。

パフォーマンスでは、地球規模の課題について関心を持ち始めたユースと一緒に、G7伊勢志摩サミットへ向けて、アクションを起こします。現在、G7 Youth Network内で企画を作成中で、近日公開する予定です。

G7伊勢志摩サミットに関心がある方、ユースの活動に関心のある方など、G7伊勢志摩サミットを通して、ユースの活動について議論、行動したい方は、是非「5/22 G7ユースサミット」へご参加下さい。

◆G7ユースサミットFacebookページ
https://www.facebook.com/events/1726989400846010/

◆G7ユースサミット 公式ページ（参加者募集中！）

動く→動かす
フォロー フォローすると
フォロワー(1)

URL	http://www.ugokuugoka
業種	財団法人・社団法人
本社所在地	東京都台東区東上野1-20-6 丸幸ビル3階 （特活）アフ 日本協議会 気付
電話番号	03-3834-6902
代表者名	今田克司
上場	未上場
資本金	-

検索
キーワードで検索
関連トピックス
「熱中症ゼロへ」サマーフェスティバル2016開催決定！キティちゃんと一緒に熱中症について学ぼう！ゆる...
「熱中症ゼロへ」プロジェクト
19分前
シリア危機 イドリブの市場で子ども5人が殺害 シリア事務所代表声明【プレスリリース】
公益財団法人日本ユニセフ協会
1時間前
総務省公募「IoTサービス創出支援事業」委託先候補としてHAROiDが決定。
株式会社HAROiD
1時間前
鎌倉・逗子・葉山の海水浴場でごみゼロナビゲーションを実施します！
NPO法人 iPledge
1時間前
佐賀県が人気沸騰中のアニメ「おそ松さん」とコラボレーション「さが松り ～佐賀も最高!!!!!!～」開始！
佐賀県
2時間前
ランキング
いま話題 今日 今週

http://japanyouthplatform.wix.com/jyps#!g7youthsummit2016/m5umd

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

G7ユースサミット詳細

【日時】5/22（日）

【時間】10:00～18:00

【場所】三重大学情報資源科学館

【対象】30歳前後までの全ての若者（一般、現場、国際機関、NGOなどから）、またユースや子どもに関して活動 している団体。

【主催組織】Japan Youth Platform for Sustainability

【協力団体】2016年G7サミット市民社会プラットフォーム／動く→動かす (GCAP Japan)／三重大学生物資源学研究科国際交流委員会

【お問い合わせ】

Japan Youth Platform for Sustainability(JYPS)

Email : g7youthsummitjapan@gmail.com

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

◎ このプレスリリースには、メディア関係者向けの情報があります。

メディア会員新規登録
無料

メディア会員ログイン
既に登録済みの方はこちら

メディア会員登録を行うと、企業担当者の連絡先や、イベント・記者会見の情報など様々な特記情報を閲覧できます。
※内容はプレスリリースにより異なります。

プレスリリースTOP > 動く→動かす > 5月22日（日）G7ユースサミット開催のお知らせ

種類	イベント
ビジネスカテゴリ	ボランティア 政治・官公庁・地方自治体
キーワード	若者 サミット 三重県 ユース G7 参画 三重大学 分科会
関連URL	http://japanyouthplatform.wix.com/jyps#!g7youthsummit2016/m5umd

プレスリリース画像一覧

画像を一括でダウンロード（zipファイル）

この企業の関連プレスリリース

もっと見る

【取材依頼】洞爺湖から伊勢志摩、そして2023年へ-G7 サミットNGO活動報告会-

2016年6月10日 18時30分

伊勢志摩サミット「地に落ちた」G7へのNGOの期待

2016年6月3日 11時31分

◇◆◇市民の伊勢志摩サミット◇◆◇～地域や世界に、市民の提案を発信する２日間～

2016年5月17日 19時15分

「LINE Creators Market」から誕生した人気スタンプキャラクター「うさまる」初の「うさまるカフェ」を...
LINE株式会社
1

真夏は、にんにくで乾杯！料理全品500円「国産にんにくフェス2016」7月14日~18日に新宿で開催！
株式会社ドリームチェイサー
2

Yahoo!映画　作品ユーザーレビュー月間ランキング
株式会社GYAO
3

五郎丸 歩×アサヒビール All for One!　プロジェクト『ラグビー体験教室』開催決定！
アサヒビール株式会社
4

6月20日より、「ふしぎの国のアリス」デザインのプチケーキセットを期間限定販売
株式会社銀座コージーコーナー
5

総務省公募「IoTサービス創出支援事業」委託先候補としてHAROiDが決定。
株式会社HAROiD
6

AppBankの『パズドラ攻略』iOS版ダウンロード数が100万回を突破！
AppBank
7

佐賀県が人気沸騰中のアニメ「おそ松さん」とコラボレーション「さが松り ～佐賀も最高!!!!!～」開始！
佐賀県
8

株式会社LastRootsは、新仮想通貨c0ban（コバン）と、世界発の広告サービスc0ban広告を今秋リリース
株式会社LastRoots
9

Deception(欺瞞)技術による標的型攻撃対策の新ソリューション、国内販売を開始
IWI インテリジェントウェイブ
10

Facebookで人気

日本初！最先端IoTデバイスを集結させたスマートホステル「&AND HOSTEL」国家戦略特区・福岡に8月オー...
and factory株式会社
2158

【速報】まるで肉のテーマパーク!塊肉ステーキ、焼きとん、もつ鍋、餃子にから揚げのハシゴ肉!!『旭日食...
株式会社大庄
739

産経ニュース 東京 27℃ 産経WEST IRONNA フォト 検索
ホーム スポーツ エンタメ ライフ 地方 GQ WIRED 日本力
速報 事件 政治 国際 経済 コラム 特集 写真 ランキング 主張 産経抄
金融・財政 産業・ビジネス IT 新商品 プレスリリース ショッピング

2016.4.12 16:38

文字の大きさ 小 中 大 印刷

5月22日（日）G7ユースサミット開催のお知らせ

ツイート 反応 おすすめ 27 G+1 0 PRTIMES

動く→動かす
5月26日、5月27日のG7伊勢志摩サミット開催に際して、日本全国のユースから成るJapan Youth Platform for Sustainabilityは、「G7ユースサミット」を開催することを決定致しました。

[画像: http://prtimes.jp/i/11082/19/resize/d11082-19-491391-0.jpg]

G7ユースサミットは、G7伊勢志摩サミットの議題やSDGs、若者の課題について、日本全国のユースとともに議論し、意見をまとめて、政策として日本政府や国連機関、市民社会にその声を届けていくための「場」です。
そして、来年以降のG7にも向けて、どういうテーマが扱われるべきか方向性を示します。

G7ユースサミットは、全体会、分科会、パフォーマンスで構成されています。

全体会では、G7伊勢志摩サミットの議題や若者の課題について、共通の理解を図るために、パネルディスカッションを行います。テーマは「G7の歴史とアドボカシーの重要性」と「G7および世界が面する国際的課題＆三重県とG7 - グローバルとローカルの繋がり」です。

分科会では、G7伊勢志摩サミットの議題や若者の課題について、12のテーマを設けます。この12のテーマに関連する活動を行っている分科会主催団体が主導になって、G7ユースサミット参加者とともに、若者と子どもに関する政策を議論、最終宣言文の作成をします。

パフォーマンスでは、地球規模の課題について関心を持ち始めたユースと一緒に、G7伊勢志摩サミットへ向けて、アクションを起こします。現在、G7 Youth Network内で企画を作成中で、近日公開する予定です。

G7伊勢志摩サミットに関心がある方、ユースの活動に関心のある方など、G7伊勢志摩サミットを通して、ユースの活動について議論、行動したい方は、是非「5/22 G7ユースサミット」へご参加下さい。

◆G7ユースサミットFacebookページ
https://www.facebook.com/events/1726989400846010/

◆G7ユースサミット 公式ページ（参加者募集中！）
http://japanyouthplatform.wix.com/jyps#!g7youthsummit2016/m5umd

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

新聞購読のお申し込み 書籍・雑誌
「ニュース」のランキング
瞬間 アクセス ソーシャル
もっと見る
プレミアム
【野口裕之の軍事情勢】母性本能こそが国家を守る 海自護衛艦「やまぎり」のママさん艦長かく闘えり
【写真集チラ見せ１０選】癒し…
【伊勢志摩サミット秘話】各国…
【経済インサイド】中国から韓…
【衝撃事件の核心】〝盗人猛々…
【スポーツ異聞】指名確実の下…
【日本共産党研究】「侵略戦争…
【阿比留瑠比の偏向ざんまい】…
もっと見る
産経スペシャル
注目ニュース
【フロリダ銃乱射】トランプ氏、またまたお騒がせ 「報道不正確」と有力紙ワシントン・ポスト締め出し
【舛添知事追及・集中審議（6…
【経済裏読み】世界に赤っ恥……
【舛添氏公私混同疑惑】面会者…
「実はありました…」捨てたと…
【外交・安保取材の現場から】…
【小林麻央乳がん】「車の中で…
【衝撃事件の核心】「任侠道に…
今週のトピックスPR

G7ユースサミット詳細
【日時】5/22（日）
【時間】10:00～18:00
【場所】三重大学情報資源科学館
【対象】30歳前後までの全ての若者（一般、現場、国際機関、NGOなどから）、また
ユースや子どもに関して活動 している団体。
【主催組織】Japan Youth Platform for Sustainability
【協力団体】2016年G7サミット市民社会プ゜ラットフォーム／動く→動かす (GCAP
Japan)／三重大学生物資源学研究科国際交流委員会
【お問い合わせ】
Japan Youth Platform for Sustainability(JYPS)
Email : g7youthsummitjapan@gmail.com
＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

プレスリリース詳細へ

最新ニュース
- 【海外こぼれ話】木の割れ目に頭突っ込んだ牛が立ち往生…消防士らが農作業車で引っ張り、騒動収まる
- 【海外こぼれ話】キプロスの神父、新郎の背中たたいた付添人を殴り、結婚式も放棄
- 東京株終値は１６０円安で１万５８００円台　４日続落、２カ月ぶり安値
- 【舛添氏公私混同疑惑】不信任案成立へ　全会派が賛同、舛添氏「辞職」を受け入れず
- 白物家電の「東芝ブランド」、国内販売維持を改めて強調　８月には高性能オーブンレンジ発売
- 【フロリダ銃乱射】トランプ氏、またまたお騒がせ　「報道不正確」と有力紙ワシントン・ポスト締め出し
- 青汁で熊本地震復興を後押し　東洋新薬が熊本工場を増強
- 【舛添氏公私混同疑惑】自民、舛添氏の不信任案を協議
- 長期金利、下げ拡大　マイナス０・１７５％で過去最低更新
- 買春容疑で刑務所技官逮捕　神奈川県警

- 通訳ガイド規制緩和の動き　観光庁が法改正へ議論　質の担保が課題
- 横浜市立大職員、危険ドラッグ密輸した疑いで逮捕　「自分で使うためネットで注文」
- 蔡・台湾総統が中南米へ初外遊　パナマとパラグアイへ　６月２４日から７月２日の日程
- ふるさと納税額、昨年度は４倍超の１６５３億円に　寄付金トップは宮崎県都城市
- 新興・途上国へのインフラ民間投資、昨年は１１．８兆円
- 田母神陣営の選対事務局長、起訴内容を否認　公選法違反事件で東京地裁初公判
- 東京株、連日の大幅安　午前終値は２００円安で１万５８００円台
- 【舛添氏公私混同疑惑】舛添知事の不信任案提出「都議会で適宜適切に判断を」と石原再生相　自民都連会長として発言
- 元「歌のお兄さん」に懲役１年６月求刑　東京地裁で初公判　覚せい剤取締法違反事件
- 米長期金利も低下　４カ月ぶり水準

事件　政治　国際　経済　コラム

オピニオン
- 今どきの若者がブラックバイトに陥るにはワケがある！
- なぜ国連は日本にだけ厳しいのか
- 韓国がいずれ自爆する「慰安婦」の大ウソ

フォト

関西版
- 【経済裏読み】世界に赤っ恥…大韓航空パイロット労組、羽田事故は「天が下す最後の警告」！？まるで他人事
- 【衝撃事件の核心】「任侠道にもとる！」山口組分裂〝血の抗争〟余波　オヤジが子を置き去りに逃走…ヤクザ社会で批判噴出
- 【関西の議論】「一つの奇跡だ」よみがえった紀州徳川家伝来の能…演目難しい「逢者比べの能」を現代の舞手が演じる

ページ先頭へ

産経ニュース

5月22日（日）G7ユースサミット開催のお知らせ

2016年4月12日

（PR TIMES）－ リリース発行企業：動く→動かす

5月26日、5月27日のG7伊勢志摩サミット開催に際して、日本全国のユースから成るJapan Youth Platform for Sustainabilityは、「G7ユースサミット」を開催することを決定致しました。

[画像: http://prtimes.jp/i/11082/19/resize/d11082-19-491391-0.jpg]

G7ユースサミットは、G7伊勢志摩サミットの議題やSDGs、若者の課題について、日本全国のユースとともに議論し、意見をまとめて、政策として日本政府や国連機関、市民社会にその声を届けていくための「場」です。
そして、来年以降のG7にも向けて、どういうテーマが扱われるべきか方向性を示します。

G7ユースサミットは、全体会、分科会、パフォーマンスで構成されています。

全体会では、G7伊勢志摩サミットの議題や若者の課題について、共通の理解を図るために、パネルディスカッションを行います。テーマは「G7の歴史とアドボカシーの重要性」と「G7および世界が面する国際的課題＆三重県とG7 － グローバルとローカルの繋がり」です。

分科会では、G7伊勢志摩サミットの議題や若者の課題について、12のテーマを設けます。この12のテーマに関連する活動を行っている分科会主催団体が主導になって、G7ユースサミット参加者とともに、若者と子どもに関する政策を議論、最終宣言文の作成をします。

パフォーマンスでは、地球規模の課題について関心を持ち始めたユースと一緒に、G7伊勢志摩サミットへ向けて、アクションを起こします。現在、G7 Youth Network内で企画を作成中で、近日公開する予定です。

G7伊勢志摩サミットに関心がある方、ユースの活動に関心のある方など、G7伊勢志摩サミットを通して、ユースの活動について議論、行動したい方は、是非「5/22 G7ユースサミット」へご参加下さい。

◆G7ユースサミットFacebookページ
https://www.facebook.com/events/1726989400846010/

◆G7ユースサミット 公式ページ（参加者募集中！）
http://japanyouthplatform.wix.com/jypa#!g7youthsummit2016/m5umd

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝
G7ユースサミット詳細
【日時】5/22（日）
【時間】10:00～18:00
【場所】三重大学情報資源科学館
【対象】30歳前後までの全ての若者（一般、現場、国際機関、NGOなどから）、またユースや子どもに関して活動 している団体。
【主催組織】Japan Youth Platform for Sustainability
【協力団体】2016年G7サミット市民社会プラットフォーム／動く→動かす（GCAP Japan）／三重大学生物資源学研究科国際交流委員会
【お問い合わせ】
Japan Youth Platform for Sustainability(JYPS)
Email:g7youthsummitjapan@gmail.com
＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

PR TIMESプレスリリース詳細へ

（提供：PR TIMES）

シェア 0　ツイート tweet　ブックマーク 0　メール　印刷

&Mの最新情報をチェック
いいね！ 4622人が「いいね！」と言っています。「いいね！」をクリックして、友達に知らせましょう。
フォローする 835人のフォロワー

&Mの最新情報をチェック
いいね！ 4622　フォローする

Photo Gallery

What's New
「日産ウイングロード」の装備を強化
ビーチバレー・坂口佳穂さんの素顔
「Cクラス・カブリオレ」に試乗
ローズ氏、イチローに何を語るのか
貨物時刻表を調べて常磐貨物線を堪能
絶望都も驚くザクザクシュークリーム

Present & Information
再び人気「写ルンです」を40名にプレゼント
使うほど味が出る旅のノートを5名に

Shopping
後悔しない洗濯機選びのコツ
ドラム式と縦型は何が違う？

毛布も洗ったほうがいい？
おいしく炊ける方法を伝授

美人記念日
今日は何の日？
美人と一緒なら、毎日が特別な1日

Columns

ヤフーはどのように社会に貢献できるのか？
ウェブ検索
YAHOO! JAPAN ニュース
ようこそ、hidetonoaki さん
0ポイント 期間限定！ ヤフー・カード入会特典がスゴイ
Yahoo! JAPAN ヘルプ
キーワードを入力 ニュース
hid***** 閲読一覧

伊勢志摩サミットに先駆け、「G7ユースサミット」

オルタナ 5月2日(月)12時35分配信

G7に向けて政策に若者の声を集約して届ける

5月26・27日に行われるG7首脳会合（伊勢志摩サミット）に先立って、G7ユースサミットが5月22日に開かれる。ユースサミットでは、世界各国から集まった有志の若者たちで、政策について議論し、提言を発表する。場所は三重大学で、参加者を受け付けている。（オルタナS副編集長＝池田 真隆）

G7ユースサミットを企画しているのは、Japan Youth Platform for Sustainability（JYPS）。同組織は若者の声を集約して、政策として、日本政府や国連機関に届ける機能を持つ。ユースサミット以外にも20以上のプロジェクトに取り組んでおり、若者と政治をつなぐプラットホームだ。30団体、200人以上の個人が登録している。

ユースサミット当日は、全体会や分科会などを通して、国際問題への若者の意識啓発を行う。全体会ではG7についての説明会が、分科会では食糧やESD（持続可能な開発のための教育）、保健、防災など12のテーマについて話し合う。分科会ではそれぞれの分野で活動するユース団体が出展する。当日に若者による提言をまとめ、閉会式で発表する。

5月25・26日に実施されるマスメディア向けの記者会見では、JYPSのスタッフが登壇して、このユースサミットについて報告する。JYSP政策部統括の外池英彬さんは「問題を構造的に理解するためにも参加してほしい」と呼びかける。外池さんは、ユースは世界的に重宝されていると前置きした上で、「国際的な枠組みのなかで、期待されてはいない」と言う。その理由は、問題の構造が分かっていないからだと説明する。

G7で話し合われるSDGs（持続可能な開発目標）に対しては、「省庁が政策を策定する前から深く携わるようにプランを立てていきたい」と話す。G7ユースサミットは30歳以下を対象にしており、定員は200人。

【関連記事】
高校生100人が社会に提言　若者宣言発布
「18歳選挙権」で若者と社会に課せられた課題とは
憲法の権威、「情けないが、政治家を選んだのは私たち」
若者と政治、同世代がSNSでつなげる
候補者当選を目指すボードゲーム

雑誌アクセスランキング（国内）
1 清涼の下を去っていった人々　元木大介は『お話しすることはありません』　意外な長嶋一茂への恨み　デイリー新潮　6月15日(水)5時50分
2 「舛添叩き」が衆愚の極みである理由　HARBOR BUSINESS Online　6月14日(火)16時20分
3 舛添知事に「ゲスな要素をすべて持ち合わせたゲス」の声　週刊女性PRIME　6月14日(火)16時0分
4 「買ってはいけない夏のユニクロ」ワースト5を発表　週刊SPA!　6月8日(水)9時10分
5 舛添知事は都議会を解散せよ――都議たちの"政治と金"問題を逃すな　週刊SPA!　6月15日(水)1時40分

アクセスランキング（国内）
1 舛添知事「子どものため辞めたいけど」涙で続投訴え　日刊スポーツ　6月14日(火)19時46分
2 橋下氏激怒！中山元外務副大臣を提訴へ　「完全な名誉毀損」ツイッターで激烈批判　産経新聞　6月14日(火)20時46分
3 自宅床に穴開け女性宅に侵入…５１歳男の恋の末路は？「彼女は人生の全てだった…」　産経新聞　6月14日(火)20時30分
4 巨大肉食魚、名古屋城外堀で成長中　捕獲できず１ｍ超に　朝日新聞デジタル　6月14日(火)20時11分
5 「母親の執念実った」「よく助かった」山中で不明の19歳少年、4日ぶりに発見　目立ったけがなし　福岡　西日本新聞　6月14日(火)12時49分

【PR】経済センサスってどういう調査？ 私たちにメリットは？
【PR】「経済センサス」オンライン回答のメリットとは？

新着動画ニュース（国内）
尼崎の飲食店　女性が刺され重傷　男が逃走　毎日放送　7時35分
新名神高速　橋脚倒壊　調査委「部材の設置が不安定」　毎日放送　7時34分

- オルタナSについて (http://alternas.jp/about)
- サイトマップ (http://alternas.jp/sitemap)
- 問い合わせ (http://alternas.jp/contact)
- 「無料メルマガ」への登録 (http://alternas.jp/%e3%82%aa%e3%83%ab%e3%82%bf%e3%83%8a%ef%bd%93%e4%bc%9a%e5%93%a1%e5%88%b6%e3%82%b3%e3%83%9f%e3%83%a5%e3%83%8b%e3%83%86%e3%83
- オルタナS特派員募集 (http://alternas.jp/%e3%82%aa%e3%83%ab%e3%82%bf%e3%83%8as%e7%89%b9%e6%b4%be%e5%93%a1%e5%8b%9f%e9%9b%86)
- 「Sキャン」一覧 (http://alternas.jp/scampus)

検索

alternaS 昨日と違うスイッチを探そう。

(http://alternas.jp)

はたらく

伊勢志摩サミットに先駆け、「G7ユースサミット」

2016年5月2日 12:23 PM はたらく (http://alternas.jp/category/work)–エシカルな働き方 (http://alternas.jp/category/work/ethical_work)

ツイート　いいね！ 8

5月26・27日に行われるG７首脳会合（伊勢志摩サミット）に先立って、G７ユースサミットが5月22日に開かれる。ユースサミットでは、世界各国から集まった有志の若者たちで、政策について議論し、提言を発表する。場所は三重大学で、参加者を受け付けている。（オルタナS副編集長＝池田 真隆）

G7に向けて政策に若者の声を集約して届ける

G７ユースサミットを企画しているのは、Japan Youth Platform for Sustainability（JYPS）。同組織は若者の声を集約して、政策として、日本政府や国連機関に届ける機能を持つ。ユースサミット以外にも20以上のプロジェクトに取り組んでおり、若者と政治をつなぐプラットホームだ。30団体、200人以上の個人が登録している。

ユースサミット当日は、全体会や分科会などを通して、国際問題への若者の意識啓発を行う。全体会ではG７についての説明会が、分科会では食糧やESD（持続可能な開発のための教育）、保健、防災など12のテーマについて話し合う。分科会ではそれぞれの分野で活動するユース団体が出展する。当日に若者による提言をまとめ、閉会式で発表する。

5月25・26日に実施されるマスメディア向けの記者会見では、JYPSのスタッフが登壇して、このユースサミットについて報告する。JYSP政策部統括の外池英彬さんは「問題を構造的に理解するためにも参加してほしい」と呼びかける。外池さんは、ユースは世界的に重宝されていると前置きした上で、「国際的な枠組みのなかで、期待されてはいない」と言う。その理由は、問題の構造が分かっていないからだと説明する。

G7で話し合われるSDGs（持続可能な開発目標）に対しては、「省庁が政策を策定する前から深く携わるようにプランを立てていきたい」と話す。G7ユースサミットは30歳以下を対象にしており、定員は200人。

【G7ユースサミット】
とき：5月22日（日）9：00～18：00
ところ：三重大学
詳細は**こちら (http://japanyouthplatform.wix.com/jyps#!blank/uaohn)**

新着情報

2016年6月14日 NEW! 【小説】69歳の学生から20代の学生たちへ（21） (http://alternas.jp/work/challengers/64693)
2016年6月14日 NEW! 「軍艦島アーカイブ」手掛けたウェブ製作会社社長 (http://alternas.jp/study/it_social/64687)
2016年6月13日 熊本・阿蘇で「奇跡の1000人田植え」 (http://alternas.jp/study/news/64678)
2016年6月13日 オトコの育休　人と企業はどう変わる？ (http://alternas.jp/work/ethical_work/64668)
2016年6月12日 SNSで対話型新聞へ 「新聞離れ」に向き合う佐賀新聞の挑戦 (http://alternas.jp/study/it_social/64657)

« 企業で働きながら社会活動をするには？トークイベント (http://alternas.jp/joy/date/64000) 【熊本地震】これから必要なのは「トリプルボランティア」 (http://alternas.jp/work/ethical_work/64015) »

ツイート いいね！ 8

0 Comments オルタナS Login

オススメする Share 新着順に並び替え

Start the discussion…

Be the first to comment.

オルタナS の関連記事

「入浴介助は男性」「配慮なし」　障害女性の生きづらさ
1 comment・5ヶ月前
れい —

ロート製薬に動物実験廃止　署名運動始まる
2 comments・5ヶ月前
やお — バカだなー 化粧品はやめさせても医薬品でそれ以上の数が動物を使ってるんだから意味ないない

若者が旅に求める「非日常」とは
1 comment・2年前
へむり。（アフリカ・中東周遊） —「ストーリーを感じないから買わないだけ」というのがすごく分かります！

「日本のアウシュヴィッツ」と呼ばれ——栗生楽泉園（下）
1 comment・1年前
りょう —

Subscribe あなたのサイトにDisqusを追加 Add Disqus Add 非公開 DISQUS

関連記事

- 学生向け「SDGsフォトコンテスト」大賞は賞金と一眼レフなど (http://alternas.jp/study/global/64648)

伊勢志摩サミット

ツイート 0　シェア 0　G+1 0

2016年5月19日　紙面から

若者も未来を議論　三重大で二つの「サミット」

伊勢志摩サミットに関連し、若者が世界の課題を話し合う「東海グローバルサミット」が二十一日、津市の三重大で開かれる。

同大の学生らでつくる実行委が主催。環境、難民、教育、保健衛生の四つの分科会で、どんな未来を創るかを議論する。高校生から二十五歳以下の若者が参加し、全国から百二十人が参加予定だ。

議論の成果は二十三日に四日市市で開かれる「市民の伊勢志摩サミット」でも発表する。実行委代表の山内康史さん（２０）＝人文学部三年＝は「私たちが社会の中心となる二〇五〇年の世界について議論し、地域に目を向けるきっかけになれば」と話す。

三重大では二十二日にも、別の若者のグループが「Ｇ７ユースサミット」を開く。東京や関西、東海地方の大学生を中心に三十歳以下の若者で組織。百人超が参加予定で、各分科会では、サミットの歴史や世界平和、若者の社会参画といったテーマで議論する。採択した宣言文は、伊勢志摩サミットの期間中に、伊勢市の国際メディアセンターで記者発表する予定。

（大山弘、池内琢）

この記事を印刷する

PR情報

新聞のレイアウトそのまま！ 中日プラス「伊勢志摩サミット特集」

伊勢志摩サミットに関連する紙面をまとめました。サミットにまつわる知識や地元の動きなど、様々な切り口から取材、編集する「サミットしんぶん」は、毎月２回掲載予定です。

最新記事

› 記事一覧

- ＜記者がサミット振り返る＞（下）　地域の課題（2016年6月3日）
- ＜記者がサミット振り返る＞（中）　開催当日（2016年6月2日）
- ＜記者がサミット振り返る＞（上）　開催決定と準備（2016年6月1日）
- ポストサミット２事業を再計上　16年度県補正予算案（2016年6月1日）
- 「伊勢志摩でよかった」　知事訪問　首相と外相謝意（2016年6月1日）
- ＜宴のあと　サミット閉幕＞（下）　伊勢志摩の観光（2016年5月31日）
- サミットの様子を間近に　伊勢の取材拠点、公開始まる（2016年5月31日）
- 県民会議職員に「一丸で大成功」　知事ねぎらう（2016年5月31日）
- ポスター第５弾は感謝と決意伝える　県民会議（2016年5月31日）
- ＜宴のあと　サミット閉幕＞（中）　県の財政負担（2016年5月30日）

新聞購読のご案内

新聞広告出稿のご案内

中日新聞活用術!

新しい中日の使い方を発見!!

めくって変わる自分を発見!!

アクセスランキング　› アクセスTOP10

中日新聞　地方版記事

1 【社会】不妊女性「手術でミス」と提訴 …
2 【静岡】川勝知事の海外出張　宿泊の７５…
3 【静岡】松崎でまた車転落　国道１３６号…
4 【社会】天然記念物「鬼岩」にハーケン打…
5 【政治】舛添都知事辞職へ　不信任決議前…

動画ニュース　＜前へ｜次へ＞　› 一覧へ

車運転後、歩道に　神奈川県川崎市

舛添氏「不信任議案を」

お知らせ

名古屋本社・学生アルバイト募集中

投稿・ご意見

「発言」への投稿　「ハイ編集局です」

ご質問・ご意見全般

イベント情報　＜前へ｜次へ＞　› 一覧へ

キッズサマーキャンプ
2016年8月3日～5日開催
岐阜メモリアルセンター

[PR] イチオシ情報

勉強会　空き家対策勉強会
各県原・岐阜で開催！
参加無料。ご予約はこちらから。

作品募集　山車からくり人形写真コンテスト
地域に受け継がれる山車文化
写真作品をお寄せください。

中日HC　中日ハウジングセンター
会場を訪れる前にチェック！
モデルハウスの「あれこれ」わかります

G7ユースサミット若者ら意見交わす

伊勢志摩サミットで議論される課題について、若者が自分たちの考えを話し合うG7ユースサミットが三重大学で開かれました。

次世代を担う若者の意見を集め地球規模の課題に解決に取り組もうと開かれたもので全国から10代・20代の人を中心に約110人が参加しました。

はじめに「グローバルとローカル」をテーマに議論され、若い世代が、現状だけでなく、2、3歩先の未来を見据えて活動することの重要性などについて意見を交わしました。

また、気候変動や教育、若者の政治参画などの分科会が開かれ最終宣言文が作られました。宣言文は、サミット期間中の27日に国際メディアセンターで発表されます。

閉じる

徳島新聞 Tokushima Shimbun WEB
6月15日（水曜日）
１５日（水）１６日（木）
▶ 購読案内 ▶ 会社案内

内のふるさと納税全国最下位　１５年度２・５億円　◇塩谷（小松島出身）リオ代表決定　サッカー男子で県人初　◇さらばトロッコ列車　大歩危発着、今秋２０

トップ | 徳島ニュース | 国内外ニュース | 徳島スポーツ | 特集・連載 | NIE | イベント | 釣り | 天気 | Web写真館 | エンタメ | 購読申込

2016年06月　2016年05月　2016年04月　人事情報　訃報（徳島関係）　不審者情報（徳島県警調べ）

徳島県内のニュース

Ｇ７ユースサミットなど　ナーサリー園児製作、英字新聞をメディアに配る　2016/5/27 14:07

B! 122　チェック　Tweet

徳島市のナーサリー富田幼児園の園児が三重県津、伊勢市で取材活動を行い、英字新聞を作った。新聞は伊勢志摩サミットの取材に訪れた海外メディア関係者らに配られた。

掲載したのは、防災や環境問題などをテーマに３０歳以下の若者が議論した「Ｇ７ユースサミット」の様子や参加者のコメント、伊勢神宮の見どころ、伊勢うどんを食べた感想など。

５、６歳の園児５人が、落合輝紀園長（３３）らと２１、２２両日に取材。園児は、学生ボランティアらに英訳してもらった文章を書いたり写真を貼ったりして完成させた。

新聞は、伊勢市にある各国記者の取材拠点「国際メディアセンター」でＧ７ユースサミットの主催者を通じて１００部が配られた。吉本小日菜（こひな）ちゃん（５）は「英語を書くのは難しかったけど、新聞ができてよかった」と話していた。

【写真説明】園児が作った新聞＝徳島市富田橋５のナーサリー富田幼児園

▶ 徳島ニュース 記事一覧へ

PR 徳島新聞夏休み子供教室　７月２７日～…
PR 役員人事のお知らせ

メニュー
▶ 徳島ヴォルティス　▶ 高校野球
▶ 社説　▶ 潮潮　▶ 号外　▶ 地震
▶ ニュースリリース　▶ 不審者
▶ 人事　▶ 訃報

WEB週間ﾗﾝｷﾝｸﾞ(徳島ニュース)
1 徳島ヴォルティス、四国ダ…
2 TPV 徳島新聞動画
3 シニアカフェ１１日初開催…
4 さらばトロッコ列車　大歩…
5 木村忠氏（元木沢村助役）
6 徳島市選管、ポスター掲示…
7 洪水予報、手順を確認　徳…
8 夏の足元、涼やかに　阿波…
9 そごう徳島店売り場開設　…
10 ドローンで散布試験　徳島…
集計期間:6月8日～6月15日

6月15日
- 園児らが「野菜食べよう」　食育フェスタで呼び掛け　6/15 10:46
- 移住増目指し鳴門市がＰＲポスター　第１号は新規就農者の夢紹介　6/15 10:43
- 県内のふるさと納税全国最下位　１５年度２・５億円　6/15 10:42
- 塩谷（小松島出身）リオ代表決定　サッカー男子で県人初　6/15 10:37

6月14日
- さらばトロッコ列車　大歩危発着、今秋２０年の歴史に幕　6/14 14:04
- ニチニチソウ、夏の花壇に　徳島県内で出荷盛期　6/14 14:04
- 中央構造線断層地震　徳島県が被害想定を策定　6/14 14:01
- 手話で情報提供法制化を　徳島市で全国ろうあ者大会　6/14 14:00
- 【速報】サッカー五輪オーバーエージ枠に徳島県出身の塩谷（広島）　6/14 13:10
- 田植え体験、山あいに歓声　徳島・三好市で家族連れが楽しむ　6/14 10:49
- 「視覚障害者に理解を」　盲導犬と事故死・山橋さんの友人が講演　6/14 10:10
- 県産材の椅子、熊本地震の被災地に寄贈　不足知り神奈川大生製作　6/14 10:10
- 鳴門競艇リニューアル１ヶ月　売り上げ予想の１・２６倍　6/14 10:05

6月13日
- 徳島市選管、ポスター掲示板設置　参院選控え作業　6/13 14:02
- 美馬市長に無投票で藤田氏　「人口減少に歯止め」　6/13 13:50

6月12日
- 徳島ヴォルティス、四国ダービー制す　6/12 21:09
- 地元食材で和・洋食　小松島西高の「ミニカフェ」盛況　6/12 14:14
- 県産梅、記録的な不作　開花期の低温・収穫前の強風　6/12 14:12
- ６０～９０代、会話楽しむ　徳島市でシニアカフェ初開催　6/12 14:11
- シームレス民泊整備　災害時は避難所、平時はお遍路さんが利用　6/12 14:10
- 小松島、手作り水車で田んぼ踏す　昔ながらの風情を醸し出す　6/12 10:15

主なサービス
- 徳島新聞女性クラブ
- 徳島新聞カルチャーセンター
- うず潮図書館：蔵書オンライン図書検索
- とくしま就活ナビ.com
- 郷土の本：徳島新聞社発行の図書一覧
- 記事検索：徳島新聞データベース
- 医療・健康（イベントなど）
- 徳島新聞ソーシャルメディア一覧

注目コンテンツ
- 徳島新聞動画（YouTube）
- はぐくみ徳島－徳島の子育て
- 読者の写真コンクール
- 徳島県内のライブカメラ
- 読んでとくする新聞のつかいかた
- 徳島の上場企業株価
- きょうエコプロジェクト
- NIEいっしょに読もう！新聞コンクール
- とく島もよう
- 「HAPPY NEWS2016」募集中！
- 徳島県地域創生人材育成事業（PR）
- 徳島新聞PICK UP
- とくしま創生アワード

徳島新聞社から